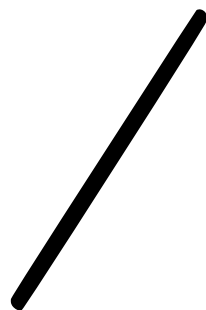


第 146 回

# 日商簿記検定試験

**3 級 模擬問題**

**第**



**回**



学校法人高橋学園

専門  
学校

**東京CPA会計学院**

**第1問** (20点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金	当座預金	普通預金	商品券
減価償却費	発送費	備品	預り金
仮受金	支払手数料	買掛金	固定資産売却益
受取手形	減価償却累計額	給料	未収入金
他店商品券	支払利息	仮払金	手形売却損
仕入	立替金	固定資産売却損	当座借越

- 平成25年4月1日に購入した備品（取得原価¥1,200,000、残存価額ゼロ、耐用年数8年、定額法で計算、直接法で記帳）が不用になったので、本日（平成29年5月10日）¥500,000で売却し、代金は翌月末に受け取ることにした。なお、決算日は12月31日とし、減価償却費は月割りで計算する。また、減価償却費の計上も併せて行うこと。
- 仕入先山梨商店より商品500個（@¥1,200）を掛けで購入した。なお、商品の引取にかかる費用¥20,000を現金で支払っているが、仕入先山梨商店と折半することになっている。
- 得意先より受け取った約束手形¥2,000,000を取引銀行で割引き、利息に相当する金額を控除した残額が当社の普通預金口座に入金された。なお、割引時から満期日までの日数は73日、年利率4%、1年間を365日として日数計算により利息の計算を行う。
- 商品券1枚¥1,000を200枚発行し、代金は現金で受け取った。
- 従業員に対する給料¥526,000（所得税の源泉徴収税額¥24,000控除後）を当座預金口座から従業員の口座へ振り込んだ。なお、当座預金の残高は¥265,000であり、取引銀行と当座借越し契約を結んでいる。

**第2問** (8点)

橋口商店の平成29年5月中の取引は次のとおりである。それぞれの日付の取引が、答案用紙に示したどの補助簿に記入されるか、該当する補助簿の欄に○印を付して答えなさい。

- 8日 仕入先志水商店より商品¥10,000,000を購入し、代金のうち¥4,000,000は当店振出しの小切手で支払い、残額のうち半分は当社振出しの約束手形で支払い、残額は掛けとした。
- 10日 8日に仕入れた商品¥200,000が品違いであったため、仕入先志水商店に返品した。なお、掛け代金と相殺することになっている。
- 16日 得意先古山商事に商品¥6,000,000を販売し、代金のうち¥2,000,000は得意先振出しの小切手で受け取り、残額は掛けとした。
- 31日 得意先古山商事より掛代金の全額が当社の当座預金口座に入金された。

## 第 3 問 (30 点)

樟南商店の 5 月中の取引は次のとおりである。同取引を集計し、答案用紙に示す残高試算表を完成させなさい。

## 1. 4 月末日の残高試算表

		残 高 試 算 表		(単位：円)	
現	金	1,860,000	支 払 手 形		2,000,000
当 座 預 金		2,450,000	買 掛 金		1,200,000
受 取 手 形		1,800,000	未 払 金		1,200,000
売 掛 金		900,000	預 り 金		32,000
有 価 証 券		685,000	前 受 金		650,000
繰 越 商 品		150,000	貸 倒 引 当 金		65,000
前 払 金		90,000	建物減価償却累計額		4,800,000
貸 付 金		1,000,000	備品減価償却累計額		1,200,000
建 物		10,000,000	資 本 金		9,741,000
備 品		2,000,000	売 上		14,652,000
車 両		600,000	受 取 配 当 金		60,000
仕 入		9,852,000	受 取 利 息		1,000
給 料		2,685,000			
営 業 費		1,529,000			
		35,601,000			35,601,000

## 2. 5 月中の取引

(1) 当座預金に関する取引 (他の事項で判明するものを除く)

- ① 源泉徴収税額 ¥32,000 の納付    ② 買掛金 ¥500,000 の支払い    ③ 手付金 ¥150,000 の支払い  
 ④ 従業員に対する給料 ¥580,000 (源泉徴収税額 ¥30,000 控除後) の支払い    ⑤ 売掛金 ¥500,000 の回収  
 ⑥ 貸付金 ¥400,000 の回収    ⑦ 手付金 ¥100,000 の受取り    ⑧ 振出した約束手形 ¥600,000 の決済  
 ⑨ 営業費 ¥425,000 の支払い

(2) 商品の購入に関する取引

- ① 掛仕入 ¥850,000    ② 手形仕入 ¥400,000    ③ 手形の裏書による仕入 ¥500,000  
 ④ 小切手の振出しによる仕入 ¥200,000    ⑤ 手付仕入 ¥180,000

(3) 商品の販売に関する取引

- ① 掛売上 ¥1,000,000    ② 手形売上 ¥500,000    ③ 小切手の受入れによる売上 ¥400,000  
 ④ 手付売上 ¥480,000    ⑤ 売上戻り ¥20,000 (売掛金と相殺)

(4) その他の取引

- ① 有価証券の 1/2 を販売し、代金 ¥325,000 は 6 月中に受け取ることにしている。  
 ② 備品 ¥800,000 を購入し、代金は再来月末日に支払うことにしている。  
 ③ 前期より繰り越されてきた売掛金 ¥20,000 が貸倒れた。

## 第 4 問 (10 点)

竹葉商店は、日々の取引を入金伝票、出金伝票および振替伝票の3種類の伝票に記入し、これを1日分ずつ集計して仕訳日計表を作成し、この仕訳日計表から総勘定元帳に転記している。同店の平成29年5月1日の取引について作成された次の各伝票（略式）にもとづいて、答案用紙の仕訳日計表を作成しなさい。

入金伝票 No.101	
売上	100,000

出金伝票 No.201	
営業費	68,000

振替伝票 No.301	
備品	1,000,000

入金伝票 No.102	
当座預金	60,000

出金伝票 No.202	
給料	380,000

振替伝票 No.302	
未払金	1,000,000

入金伝票 No.103	
借入金	200,000

出金伝票 No.203	
仕入	140,000

振替伝票 No.302	
当座預金	150,000

入金伝票 No.104	
売掛金	350,000

出金伝票 No.204	
支払手形	200,000

振替伝票 No.302	
売掛金	150,000

## 第 5 問 (32 点)

次の(1)決算整理前残高試算表と(2)決算整理事項等にもとづいて、答案用紙の貸借対照表および損益計算書を作成しなさい。なお、会計期間は平成28年1月1日から平成28年12月31日までの1年間である。

## (1) 決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表 (単位：円)

借方	勘定科目	貸方
256,200	現金	
800,000	受取手形	
1,200,000	売掛金	
120,000	繰越商品	
1,600,000	備品	
2,000,000	土地	
50,000	仮払金	
	買掛金	480,000
	借入金	1,200,000
	貸倒引当金	16,000
	備品減価償却累計額	500,000
	資本金	2,575,000
	売上	8,600,000
	受取地代	109,200
4,520,000	仕入	
2,400,000	給料	
240,000	支払家賃	
165,000	水道光熱費	
120,000	通信費	
9,000	支払利息	
13,480,200		13,480,200

## (2) 決算整理事項等

- 決算にあたり現金の実際有高を調査した結果、次のものが金庫に保管されていた。なお、適正な勘定科目で処理されている。  
硬貨¥5,200、紙幣¥96,000  
他人振出小切手¥148,000  
他人振出しの約束手形¥150,000
- 仮払金は、従業員が出張に行く際に旅費の概算払い額を処理したものである。決算日現在従業員は帰社しており、現金¥4,000を追加で支払った処理が行われていない。
- 受取手形および売掛金の期末残高に対して3%の貸倒引当金を設定する。
- 期末商品の棚卸高は¥96,000である。
- 備品は耐用年数8年にわたり定額法で償却する。なお、残存価額は0とする。
- 借入金は平成27年4月1日より、取引銀行より融資を受けたものであり、年利率3%、毎年3月末の後払いにより利息を支払っている。なお、利息の発生額はこれ以外にない。
- 給料の見越しが¥125,000ある。
- 地代は2月、5月、8月および11月の各初日に向こう3か月分の地代を昨年以前より受け取っている。当期に帰属しない分を繰り延べる。



採点欄	
第3問	
第4問	

専門学校 東京CPA会計学院  
第146回 日商簿記検定模擬問題

受験番号 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

生年月日 \_\_\_\_\_

# 3 級 ②

## 商業簿記

第3問 (30点)

残高試算表

(単位：円)

現金 ( )	支払手形 ( )
当座預金 ( )	買掛金 ( )
受取手形 ( )	未払金 ( )
売掛金 ( )	預り金 ( )
有価証券 ( )	前受金 ( )
繰越商品 ( )	貸倒引当金 ( )
前払金 ( )	建物減価償却累計額 ( )
( ) ( )	備品減価償却累計額 ( )
貸付金 ( )	資本金 ( )
建物 ( )	売上 ( )
備品 ( )	受取配当金 ( )
車両 ( )	受取利息 ( )
仕入 ( )	
給料 ( )	
営業費 ( )	
有価証券売却 ( )	
( )	( )

第4問 (10点)

仕訳日計表

平成29年5月1日

(単位：円)

借方	勘定科目	貸方
( )	現金	( )
( )	当座預金	( )
	売掛金	( )
( )	備品	
( )	支払手形	
	未払金	( )
	借入金	( )
	売上	( )
( )	仕入	
( )	給料	
( )	営業費	
( )		( )

採点欄	
第5問	

専門学校 東京CPA会計学院  
第146回 日商簿記検定模擬問題

受験番号 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

生年月日 \_\_\_\_\_

# 3 級 ③

## 商業簿記

第5問 (32点)

貸借対照表

平成28年12月31日現在

(単位：円)

現金	( )	買掛金	( )
受取手形	( )	借入金	( )
売掛金	( )	未払費用	( )
( )	( )	前受収益	( )
商品	( )	資本金	( )
備品	( )	当期純( )	( )
減価償却累計額	( )		
土地	( )		
	( )		( )

損益計算書

自：平成28年1月1日 至：平成28年12月31日

(単位：円)

売上原価	( )	売上高	8,600,000
給料	( )	受取地代	( )
貸倒引当金繰入	( )		
減価償却費	( )		
支払家賃	( )		
水道光熱費	( )		
通信費	( )		
( )	( )		
雑( )	( )		
支払利息	( )		
当期純( )	( )		( )
	( )		( )

日商簿記検定 3 級 第 1 回 模擬問題—解答—

第 1 問 (20点)

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	減価償却費 未収入金 固定資産売却損	62,500 500,000 75,000	備品 備品	62,500 575,000
2	仕入	610,000	買掛金 現金	590,000 20,000
3	普通預金 手形売却損	1,984,000 16,000	受取手形	2,000,000
4	現金	200,000	商品券	200,000
5	給料	550,000	預り金 当座預金 当座借越	24,000 265,000 261,000

[採点基準：各 4 点]

第 2 問 (8点)

帳簿	現金出納帳	当座預金 出納帳	商品有高帳	売掛金元帳 (得意先元帳)	買掛金元帳 (仕入先元帳)	仕入帳	売上帳	受取手形 記入帳	支払手形 記入帳
日付									
5	8		○		○	○			○
	10		○		○	○			
	16	○	○	○			○		
	31		○	○					

[採点基準：各日付につき 2 点]

第 3 問 (30点)

残高試算表		(単位：円)	
現金	( 2,260,000 )	支払手形	( 1,800,000 )
当座預金	( 963,000 )	買掛金	( 1,550,000 )
受取手形	( 1,800,000 )	未払金	( 2,000,000 )
売掛金	( 1,360,000 )	預り金	( 30,000 )
有価証券	( 342,500 )	前受金	( 270,000 )
繰越商品	( 150,000 )	貸倒引当金	( 45,000 )
前払金	( 60,000 )	建物減価償却累計額	( 4,800,000 )
<b>(未収入金)</b>	<b>( 325,000 )</b>	備品減価償却累計額	( 1,200,000 )
貸付金	( 600,000 )	資本金	( 9,741,000 )
建物	( 10,000,000 )	売上	( 17,012,000 )
備品	( 2,800,000 )	受取配当金	( 60,000 )
車両	( 600,000 )	受取利息	( 1,000 )
仕入	( 11,982,000 )		
給料	( 3,295,000 )		
営業費	( 1,954,000 )		
有価証券売却(損)	( 17,500 )		
	<b>( 38,509,000 )</b>		<b>( 38,509,000 )</b>

[採点基準：□につき 3 点]

第 4 問 (10点)

仕訳日計表			(単位：円)	
平成 29 年 5 月 1 日				
借方	勘定科目	貸方		
( 710,000 )	現金	( 788,000 )		
( 150,000 )	当座預金	( 60,000 )		
	売掛金	( 500,000 )		
( 1,000,000 )	備品			
( 200,000 )	支払手形			
	未払金	( 1,000,000 )		
	借入金	( 200,000 )		
	売上	( 100,000 )		
( 140,000 )	仕入			
( 380,000 )	給料			
( 68,000 )	営業費			
<b>( 2,648,000 )</b>		<b>( 2,648,000 )</b>		

[採点基準：□につき 2 点]



第 5 問 (32点)

貸借対照表

平成28年12月31日現在

(単位：円)

現金	( 249,000 )	買掛金	( 480,000 )
受取手形	( 800,000 )	借入金	( 1,200,000 )
売掛金	( 1,200,000 )	未払費用	( 152,000 )
(貸倒引当金)	( 60,000 )	前受収益	( 8,400 )
商品	( 96,000 )	資本金	( 2,575,000 )
備品	( 1,600,000 )	当期純(利益)	( 769,800 )
減価償却累計額	( 700,000 )		
土地	( 2,000,000 )		
	( 5,185,200 )		( 5,185,200 )

損益計算書

自：平成 28 年 1 月 1 日 至：平成 28 年 12 月 31 日

(単位：円)

売上原価	( 4,544,000 )	売上高	8,600,000
給料	( 2,525,000 )	受取地代	( 100,800 )
貸倒引当金繰入	( 44,000 )		
減価償却費	( 200,000 )		
支払家賃	( 240,000 )		
水道光熱費	( 165,000 )		
通信費	( 120,000 )		
(旅費交通費)	( 54,000 )		
雑(損)	( 3,000 )		
支払利息	( 36,000 )		
当期純(利益)	( 769,800 )		( 769,800 )
	( 8,700,800 )		( 8,700,800 )

[採点基準：□につき4点]

日商簿記検定 3 級 第 1 回 模擬問題—解説—

第 1 問

1. 固定資産の売却は、売却金額と売却時の簿価（取得原価－減価償却累計額）との差額を売却損益として計上する。

(借) 減価償却費	62,500	(貸) 備品	62,500
(借) 未収入金	500,000	(貸) 備品	575,000
(〃) 固定資産売却損	75,000		

※ 減価償却費： $\text{¥}1,200,000 \div 8 \times 5 \text{か月} (\text{平成}29\text{年}1\text{月} \sim 5\text{月}) / 12 \text{か月} = \text{¥}62,500$

※ 備品： $\text{¥}1,200,000 - \{ \text{¥}1,200,000 \div 8 \times 45 \text{か月} (\text{平成}25\text{年}4\text{月} \sim \text{平成}28\text{年}12\text{月}) / 12 \text{か月} + \text{¥}62,500 (\text{減価償却費}) \} = \text{¥}575,000$

※ 固定資産売却損： $\text{¥}575,000 - \text{¥}500,000 (\text{売却金額}) = \text{¥}75,000$

2. 商品の購入に関する付随費用は、商品の取得原価に算入する。しかし、仕入先が負担すべき費用を立替え払いしている場合には、将来仕入先に対して支払う金額が少なくなるため、買掛金勘定から減額させる。

(借) 仕入	610,000	(貸) 買掛金	590,000
(〃) 現金		金	20,000

※ 仕入： $\text{¥}600,000 + \text{¥}20,000 \times 1/2 (\text{折半}) = \text{¥}610,000$

※ 買掛金： $\text{¥}600,000 - \text{¥}10,000 (\text{先方負担の諸掛}) = \text{¥}590,000$

3. 約束手形の割引は、手形の満期日前に銀行等で換金することをいい、手形の割引時から満期日までの期間に相当する利息を割引者に支払わなければならない。この差し引かれた利息相当額を手形売却損勘定で処理する。

(借) 普通預金	1,984,000	(貸) 受取手形	2,000,000
(〃) 手形売却損	16,000		

※ 手形売却損： $\text{¥}2,000,000 \times 4\% \times 73 \text{日} / 365 \text{日} = \text{¥}16,000$

4. 商品券を発行した場合には、将来商品を引き渡す義務が生じるため、商品券勘定（負債）を計上する。そのため、商品を引き渡したときに当該商品券勘定が消滅する。

5. 給料の支払い者は給料の支払い時に所得税等の源泉徴収を行い、従業員に代わって所得税等を所定の納付地に納めなければならない。その場合に、当該所得税等の源泉徴収税額は、従業員から預かっているだけにすぎないため、預り金勘定で処理する。

(借) 給料	550,000	(貸) 預り金	24,000
(〃) 当座預金		金	265,000
(〃) 当座借越			261,000

※ 当座借越： $\text{¥}526,000 (\text{給料の支払額}) - \text{¥}265,000 (\text{当座預金の残高}) = \text{¥}261,000$

第 2 問

- (1) 補助簿の説明

1. 現金出納帳：現金残高の把握。仕訳にて現金勘定が生じた際に記入する。
2. 当座預金出納帳：当座預金残高の把握。仕訳にて当座預金勘定が生じた際に記入する。
3. 商品有高帳：商品帳簿有高及び売上原価の把握。仕訳にて仕入及び売上勘定が生じた際に記入する。ただし、売上値引きについては、売価の修正であり、商品原価には影響が無いいため、記入しない。

4. 売掛金元帳 : 商店毎の売掛金の把握。仕訳にて売掛金勘定が生じた際に記入する。
5. 買掛金元帳 : 商店毎の買掛金の把握。仕訳にて買掛金勘定が生じた際に記入する。
6. 仕入帳 : 商品購入取引の詳細を把握。仕訳にて仕入勘定が生じた際に記入する。
7. 売上帳 : 商品販売取引の詳細を把握。仕訳にて売上勘定が生じた際に記入する。
8. 受取手形記入帳 : 受取手形の決済日等・詳細の把握。仕訳にて受取手形勘定が生じた際に記入する。
9. 支払手形記入帳 : 支払手形の決済日等・詳細の把握。仕訳にて支払手形勘定が生じた際に記入する。

(2) 各取引の仕訳と補助簿の選択は次のとおりである。

8日	(借) 仕 入 3、6	(貸) 当 座 預 金	2
		(〃) 支 払 手 形	5
		(〃) 買 掛 金	9
10日	(借) 買 掛 金 5	(貸) 仕 入 3、6	
16日	(借) 現 金 1	(貸) 売 上 3、7	
	(〃) 売 掛 金 4		
31日	(借) 当 座 預 金 2	(貸) 売 掛 金 4	

### 第 3 問

本問は 4 月末日の残高に 5 月中の取引を加減して 5 月末日の残高試算表を作成する。以下、5 月中の取引を仕訳にて示す。

(1) 当座預金に関する取引

(借) 預 り 金 32,000	(貸) 当 座 預 金 32,000
(借) 買 掛 金 500,000	(貸) 当 座 預 金 500,000
(借) 前 払 金 150,000	(貸) 当 座 預 金 150,000
(借) 給 料 610,000	(貸) 当 座 預 金 580,000
	(〃) 預 り 金 30,000
(借) 当 座 預 金 500,000	(貸) 売 掛 金 500,000
(借) 当 座 預 金 400,000	(貸) 貸 付 金 400,000
(借) 当 座 預 金 100,000	(貸) 前 受 金 100,000
(借) 支 払 手 形 600,000	(貸) 当 座 預 金 600,000
(借) 営 業 費 425,000	(貸) 当 座 預 金 425,000

(2) 商品の購入に関する取引

(借) 仕 入 850,000	(貸) 買 掛 金 850,000
(借) 仕 入 400,000	(貸) 支 払 手 形 400,000
(借) 仕 入 500,000	(貸) 受 取 手 形 500,000
(借) 仕 入 200,000	(貸) 当 座 預 金 200,000
(借) 仕 入 180,000	(貸) 前 払 金 180,000

(3) 商品の販売に関する取引

(借) 売 掛 金 1,000,000	(貸) 売 上 1,000,000
(借) 受 取 手 形 500,000	(貸) 売 上 500,000

(借) 現 金 400,000	(貸) 売 上 400,000
(借) 前 受 金 480,000	(貸) 売 上 480,000
(借) 売 上 20,000	(貸) 売 掛 金 20,000

(4) その他の取引

(借) 未 収 入 金 325,000	(貸) 有 価 証 券 342,500
(〃) 有 価 証 券 売 却 損 17,500	
(借) 備 品 800,000	(貸) 未 払 金 800,000
(借) 貸 倒 引 当 金 20,000	(貸) 売 掛 金 20,000

※ 有価証券：¥685,000 (残高試算表有価証券) × 1/2 = ¥342,500

### 第 4 問

伝票とは、取引の記録(仕訳)を行う紙片であり、仕訳帳の代わりに用いられるものである。また、仕訳日計表とは、1 日分の伝票を集計する表であり(1 週間分の伝票を集計する表は仕訳週計表、1 ヶ月分の伝票を集計する表は仕訳月計表)、合計試算表の一種である。伝票の各勘定の金額を仕訳日計表に集計し、仕訳日計表から総勘定元帳に合計転記を行うことにより、転記の効率化を図ることができる。なお、各伝票の使用方法は下記のとおりである。

1. 入金伝票

入金取引を記入する伝票であり、仕訳上の借方が「現金」となる場合に用いる。入金伝票に記載される勘定科目は、仕訳上の貸方科目となる。したがって、当座預金は入金伝票には記載されない。

2. 出金伝票

出金取引を記入する伝票であり、仕訳上の貸方が「現金」となる場合に用いる。出金伝票に記載される勘定科目は、仕訳上の借方科目となる。したがって、当座預金は出金伝票には記載されない。

3. 振替伝票

入金伝票および出金伝票以外の取引を記入する伝票である。

以下、各伝票の仕訳を示す。

<入金伝票>

(借) 現 金 100,000	(貸) 売 上 100,000
(借) 現 金 60,000	(貸) 当 座 預 金 60,000
(借) 現 金 200,000	(貸) 借 入 金 200,000
(借) 現 金 350,000	(貸) 売 掛 金 350,000

<出金伝票>

(借) 営 業 費 68,000	(貸) 現 金 68,000
(借) 給 料 380,000	(貸) 現 金 380,000
(借) 仕 入 140,000	(貸) 現 金 140,000
(借) 支 払 手 形 200,000	(貸) 現 金 200,000

<振替伝票>

(借) 備 品 1,000,000	(貸) 未 払 金 1,000,000
(借) 当 座 預 金 150,000	(貸) 売 掛 金 150,000

第5問

1. 現金実査

簿記上での現金とは、即時支払い手段として機能しうる通貨並びに通貨代用証券のことをいう。そのため、簿記上での現金は硬貨、紙幣および外国通貨に加えて通貨代用証券が含まれることになる。通貨代用証券の例として他人振出しの小切手、配当金領収書等があるが本間における他人振出しの約束手形は含まれないことに注意が必要となる。現金実査を行う場合において、現金実査では2. の仮払金の精算済みの金額となっているが、現金勘定においては未処理であるため注意が必要となる。また、現金帳簿有高と現金実際有高との差額は雑損勘定または雑益勘定で処理する。

(借) 雑	損	3,000	(貸) 現	金	3,000
-------	---	-------	-------	---	-------

※ 現金実際有高：¥5,200 (硬貨) + ¥96,000 (紙幣) + ¥148,000 (他人振出し小切手) = ¥249,200

※ 現金帳簿有高：¥256,200 (整理前試算表現金) - ¥4,000 (2.) = ¥252,200

※ 雑損：¥252,200 - ¥249,200 = ¥3,000

2. 旅費の精算

従業員の出張に際し、旅費の一部を概算額により支払う場合がある。このような場合には、当該概算額を勘定科目および金額が不明であるため、仮払金勘定で処理する。なお、従業員が帰社し、金額が判明した場合には適切な勘定に振り替え、概算額と実際の金額との差額を現金等で受け取る又は支払うことになる。

(借) 旅	費	交	通	費	54,000	(貸) 仮	払	金	50,000
							(〃) 現	金	4,000

◆ 現金 ¥256,200 (整理前残高試算表現金) - ¥3,000 (1.) - ¥4,000 = ¥249,200

3. 貸倒引当金の設定

(借) 貸	倒	引	当	金	繰	入	44,000	(貸) 貸	倒	引	当	金	44,000
-------	---	---	---	---	---	---	--------	-------	---	---	---	---	--------

※ { ¥800,000 (整理前試算表受取手形) + ¥1,200,000 (整理前試算表売掛金) } × 3% - ¥16,000 (整理前試算表貸倒引当金) = ¥44,000

◆ 貸倒引当金：¥16,000 (整理前残高試算表貸倒引当金) + ¥44,000 = ¥60,000

4. 売上原価の算定

(借) 仕	入	120,000	(貸) 繰	越	商	品	120,000
(借) 繰	越	商	品	96,000	(貸) 仕	入	96,000

◆ 売上原価：¥4,520,000 (整理前残高試算表仕入) + ¥120,000 - ¥96,000 = ¥4,544,000

5. 備品の減価償却

(借) 減	価	償	却	費	200,000	(貸) 備	品	減	価	償	却	累	計	額	200,000
-------	---	---	---	---	---------	-------	---	---	---	---	---	---	---	---	---------

※ ¥1,600,000 (整理前残高試算表備品) ÷ 8年 (耐用年数) = ¥200,000

◆ 備品減価償却累計額：¥500,000 (整理前残高試算表備品減価償却累計額) + ¥200,000 = ¥700,000

6. 借入利息の見越し

(借) 支	払	利	息	27,000	(貸) 未	払	利	息	27,000
-------	---	---	---	--------	-------	---	---	---	--------

※ ¥1,200,000 (整理前残高試算表借入金) × 3% × 9か月 (4月～12月) / 12か月 = ¥27,000

◆ 支払利息：¥9,000 (整理前残高試算表支払利息) + ¥27,000 = ¥36,000

7. 給料の見越し

(借) 給	料	125,000	(貸) 未	払	給	料	125,000
-------	---	---------	-------	---	---	---	---------

◆ 給料：¥2,400,000 (整理前残高試算表給料) + ¥125,000 = ¥2,525,000

◆ 未払費用：¥27,000 (未払利息) + ¥125,000 (未払給料) = ¥152,000

8. 地代の繰延べ

前期以前より毎年2月、5月、8月および11月の各初日に向こう3か月分の地代を受け取っている。そのため、整理前残高試算表受取地代勘定には13か月分の金額が計上されていることになる。

(借) 受	取	地	代	8,400	(貸) 前	受	地	代	8,400
-------	---	---	---	-------	-------	---	---	---	-------

※ ¥109,200 (整理前残高試算表受取地代) × 1か月 / 13か月 (1月～翌年1月まで) = ¥8,400

◆ 受取地代：¥109,200 (整理前残高試算表受取地代) - ¥8,400 = ¥100,800

**3名の税理士試験合格者を輩出!!**

熊本県立八代東高等学校 久保 亮太(22歳)  
 熊本県立八代東高等学校 岩根 佳輝(22歳)  
 熊本県立熊本商業高等学校 鳩野 祐士(21歳)

開校4年で  
この実績!!

**税理士試験  
科目合格者**

4科目… 4名  
 3科目… 6名  
 2科目… 20名  
 1科目… 7名

**日商1級・全経上級合格者**

**59名/67名 (88.1%)** ※当校卒業生の合格率です。

第 146 回

# 日商簿記検定試験

**3 級 模擬問題**

第 2 回



学校法人高橋学園

専門  
学校

東京CPA会計学院

第 1 問 (20 点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適当と思われるものを選ぶこと。

現	金	有 価 証 券	手 形 借 入 金	受 取 利 息
買 掛 金	受 取 手 形	現 金 過 不 足	支 払 手 形	
租 税 公 課	旅 費 交 通 費	土 地	立 替 金	
仮 払 金	建 物	当 座 預 金	売 掛 金	
未 払 金	手 形 貸 付 金	未 収 入 金	仮 受 金	
雑 益	支 払 利 息	引 出 金	雑 損	

1. 月末において現金の实地調査をしたところ、紙幣・硬貨¥98,250、得意先振出の小切手¥26,250、約束手形¥8,000 が保管されていたが、現金の帳簿残高は¥122,000 (上記小切手のうち、¥2,400 は売掛金回収のために受け取ったものであるが未処理) であったため、未処理事項の記帳および現金残高の修正を行う。
2. 緒方商店に対し¥1,250,000 を貸し付けるために同店振出の約束手形を受取り、当店の当座預金口座より利息の受取額¥25,000 を控除した残額を、緒方商店の当座預金口座に振り込んだ。
3. 事業主の所有する土地に係る固定資産税の納税通知書を受け取り、そのうち第 1 期分¥90,000 を現金にて納付した。なお当該土地は 100 m<sup>2</sup>は店舗部分の敷地であり、200 m<sup>2</sup>は事業主居住用建物部分の敷地である。
4. 鳩野商事株式会社の発行している株式 200 株を 1 株当たり@¥5,400 で購入し、代金は証券会社に対し 3 営業日後に支払うこととした。
5. 従業員に対して旅費の概算払額として¥63,000 を仮払いしていたが、本日従業員が旅費の精算を行い、実際の使用額が¥70,000 であったため、従業員が立替払いしていた部分を現金にて支給した。

第 2 問 (20 点)

C P A 商店の 5 月中の売掛金に関する取引の記録は次のとおりである。①、②に帳簿名、③～⑩には適切な語句または金額をそれぞれ答案用紙に記入しなさい。

なお、商品売買の記帳は 3 分法によることとし、補助簿 ② に両商店以外は存在しない。

主 要 簿					
①					
売 掛 金					
5/ 1	前月繰越	180,500		5/12	( ④ )( )
8	売 上	311,200		18	当座預金 ( ⑤ )
25	( )	( ③ )		27	( ) ( ⑥ )
				31	次月繰越 ( )
		( )			( )

補 助 簿					
②					
赤 池 商 店			葦 田 商 店		
5/ 1	前月繰越	77,200	5/12	値 引	8,200
25	売 上	72,900	18	回 収	67,500
			31	次月繰越	( ⑦ )
		( )			( )
5/ 1	前月繰越	( ⑧ )	5/18	回 収	( ⑩ )
8	売 上	( ⑨ )	27	返 品	19,600
			31	次月繰越	80,400
		( )			( )

## 第3問 (20点)

熊本商店の[平成28年12月31日における貸借対照表]および[平成29年1月中の取引]は次のとおりである。よって、下記の[平成29年1月中の取引]を集計し、合計試算表を作成しなさい。なお、各取引の中には取引が重複しているものが含まれている。

## [平成28年12月31日における貸借対照表]

貸借対照表			
熊本商店	平成28年12月31日現在		(単位：円)
資 産	金 額	負債・純資産	金 額
現 金	375,900	支 払 手 形	111,300
当 座 預 金	552,300	買 掛 金	212,300
受 取 手 形	124,500	前 受 金	82,100
売 掛 金	226,900	預 り 金	6,200
前 払 金	102,300	借 入 金	50,000
貸 付 金	80,000	資 本 金	1,000,000
	1,461,900		1,461,900

## [平成29年1月中の取引]

## (1) 現金取引

① 買掛代金の決済	¥ 302,500
② 利息の支払	¥ 2,400
③ 現金売上	¥ 154,800
④ 出張旅費の支払	¥ 34,200
⑤ 仕入先への商品手付金	¥ 63,200
⑥ 従業員への給料の支給	¥ 125,300
⑦ 資金の貸付け	¥ 20,000
⑧ 売掛代金の入金	¥ 420,200

## (2) 当座預金取引

① 得意先からの商品手付金	¥ 91,200
② 借入金の返済	¥ 20,000
③ 手形代金の入金	¥ 138,200
④ 利息の受取	¥ 3,600
⑤ 手形代金の決済	¥ 112,200
⑥ 賃借した建物の家賃支払	¥ 24,100
⑦ 小切手振出による商品仕入	¥ 121,000
⑧ 所得税預り金の納付	¥ 6,200

## (3) 商品仕入取引

① 小切手振出による仕入	¥ 121,000
② 掛け仕入	¥ 326,800
③ 約束手形の振出しによる仕入	¥ 124,400
④ 手付金による仕入	¥ 61,900
⑤ 仕入返品 (掛け代金から控除)	¥ 2,000

## (4) 商品売上取引

① 現金売上	¥ 154,800
② 掛け売上	¥ 421,500
③ 約束手形の受取りによる売上	¥ 142,600
④ 手付金による売上	¥ 89,900
⑤ 売上値引 (掛け代金から控除)	¥ 8,500

## (5) その他の取引

- ① 従業員の給料の支払いに際して、源泉所得税¥5,700を控除した残額を支給している。
- ② 売掛金¥2,400の回収不能が生じている。
- ③ 買掛金支払いのために振り出した約束手形¥12,500がある。

**第 4 問** (10点)

以下の①～⑤に当てはまる語句を答えなさい。

- 財務諸表のうち、一企業における一定時点の資産、負債および純資産の状態（財政状態）を示す表のことを（ ① ）といい、一企業における一定期間の収益および費用の状態（経営成績）を示す表のことを（ ② ）という。
- 減価償却累計額は有形固定資産から差し引く形で貸借対照表に表示するが、これは減価償却累計額勘定が有形固定資産の各勘定の（ ③ ）勘定であるからである。
- 3伝票制において、現金の受入のある取引の場合には（ ④ ）伝票を用い、現金収支のない取引の場合には（ ⑤ ）伝票を用いる。

**第 5 問** (30点)

次の[決算日に判明した事項]および[決算整理事項]にもとづいて、答案用紙の精算表を完成させなさい。なお、会計期間は、平成 28 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの 1 年間である。日割計算が必要なものも、便宜的に月割計算によって行う。

**[決算日に判明した事項]**

- 得意先より商品代金の手付金として受け取っていた現金 ¥30,000 につき、売掛金の回収として処理していたことが判明した。
- 仮払金は全額備品の購入代金であることが判明した。なお、当該備品は平成 28 年 9 月に取得したものであり、翌月より使用を開始している。
- 商品 ¥80,000 を購入し、代金のうち ¥32,000 は当店振出の約束手形により支払い、残額は掛けとしていたが未処理であることが判明した。

**[決算整理事項]**

- 期末商品の棚卸高は ¥312,500（上記 3. の未処理分を含む）である。なお、売上原価の算定は売上原価勘定で行うこと。
- 期末の受取手形および売掛金の残高に対して 3% の貸倒引当金を見積り、差額補充法により設定する。
- 減価償却は次のとおり行う。なお、期中に取得した備品については月割計算を行うこと。

	耐用年数	償却方法	残存価額
建 物	30年	定額法	—
備 品 期中取得分	8年	定額法	取得原価の 10%
既 存 保 有 分	10年	定額法	取得原価の 5%

- 消耗品の未使用高は ¥16,000 である。なお、決算整理前残高試算表の消耗品は前期末の未使用高であり、当期中に全額使用済である。
- 保険料は、当期の 6 月 1 日の損害保険料の支払額（1 年間分）を処理したものであり、次期に係る部分の金額の保険料の繰延を行う。
- 借入金は平成 27 年 10 月 1 日より借入期間 2 年、利率年 3%、利払日年 2 回（3 月末、9 月末）、元本は借入期間終了時に一括返済の条件により借り入れたものであるため、当期に係る支払利息の見越を行う。

採点欄	
第1問	
第2問	

専門学校 東京CPA会計学院  
第146回 日商簿記検定模擬問題

受験番号 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

生年月日 \_\_\_\_\_

# 3 級 ①

## 商業簿記

第1問 (20点)

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				
4				
5				

第2問 (20点)

①	②	③	④	⑤
⑥	⑦	⑧	⑨	⑩



採点欄	
第3問	
第4問	

専門学校 東京CPA会計学院  
 第146回 日商簿記検定模擬問題  
**3 級 ②**  
**商業簿記**

受験番号 \_\_\_\_\_  
 氏名 \_\_\_\_\_  
 生年月日 \_\_\_\_\_

第3問 (20点)

合計試算表

自：平成29年1月1日 至：平成29年1月31日 (単位:円)

借方	勘定科目	貸方
	現金	
	当座預金	
	受取手形	
	売掛金	
	前払金	
	貸付金	
	支払手形	
	買掛金	
	前受金	
	預り金	
	借入金	
	資本金	
	売上	
	受取利息	
	仕入	
	給料	
	( )	
	旅費交通費	
	支払家賃	
	支払利息	

第4問 (10点)

①	②	③	④	⑤



日商簿記検定 3 級 第 2 回 模擬問題一解答一

第 1 問 (20点)

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	現金 現金	2,400 100	売掛金 現金過不足	2,400 100
2	手形貸付金	1,250,000	受取利息 当座預金	25,000 1,225,000
3	租税公課 引出金	30,000 60,000	現金	90,000
4	有価証券	1,080,000	未払金	1,080,000
5	旅費交通費	70,000	仮払 現金	63,000 7,000

[採点基準：各4点]

第 2 問 (20点)

①	②	③	④	⑤
総勘定元帳	得意先元帳	72,900	売 上	382,000
⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
19,600	74,400	103,300	311,200	314,500

(別解) ②の「得意先元帳」は「売掛金元帳」でも可。

[採点基準：各2点]

第 3 問 (20点)

合 計 試 算 表

自：平成29年1月1日 至：平成29年1月31日 (単位：円)

借方	勘定科目	貸方
950,900	現金	547,600
785,300	当座預金	283,500
267,100	受取手形	138,200
648,400	売掛金	431,100
165,500	前払金	61,900
100,000	貸付金	
112,200	支払手形	248,200
317,000	買掛金	539,100
89,900	前受金	173,300
6,200	預り金	11,900
20,000	借入金	50,000
	資本金	1,000,000
8,500	売上	808,800
	受取利息	3,600
634,100	仕入	2,000
131,000	給料	
2,400	(貸倒損失)	
34,200	旅費交通費	
24,100	支払家賃	
2,400	支払利息	
4,299,200		4,299,200

[採点基準：□につき2点]

第 4 問 (10点)

①	②	③	④	⑤
貸借対照表	損益計算書	評価	入金	振替

[採点基準：各2点]

第 5 問 (30点)

精 算 表

(単位：円)

日商簿記検定 3 級 第 2 回 模擬問題一解説一

勘 定 科 目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方
現 金	212,300						<b>212,300</b>	
当 座 預 金	285,300						<b>285,300</b>	
受 取 手 形	222,500						<b>222,500</b>	
売 掛 金	312,500		<b>30,000</b>				<b>342,500</b>	
前 払 金	82,000						<b>82,000</b>	
繰 越 商 品	285,800		<b>312,500</b>	<b>285,800</b>			<b>312,500</b>	
消 耗 品	8,000		<b>16,000</b>	<b>8,000</b>			<b>16,000</b>	
仮 払 金	240,000			<b>240,000</b>				
建 物	1,200,000						<b>1,200,000</b>	
備 品	600,000		<b>240,000</b>				<b>840,000</b>	
支 払 手 形		192,300		<b>32,000</b>				<b>224,300</b>
買 掛 金		200,300		<b>48,000</b>				<b>248,300</b>
前 受 金		71,000		<b>30,000</b>				<b>101,000</b>
借 入 金		( 120,000)						<b>120,000</b>
貸 倒 引 当 金		1,650		<b>15,300</b>				<b>16,950</b>
建物減価償却累計額		520,000		<b>40,000</b>				<b>560,000</b>
備品減価償却累計額		285,000		<b>63,750</b>				<b>348,750</b>
資 本 金	1,800,000							<b>1,800,000</b>
売 上		1,373,650					<b>1,373,650</b>	
仕 入	863,500		<b>80,000</b>	<b>943,500</b>				
給 料	( 189,300)					<b>189,300</b>		
保 険 料	36,000			<b>15,000</b>	<b>21,000</b>			
消 耗 品 費	24,000		<b>8,000</b>	<b>16,000</b>	<b>16,000</b>			
支 払 利 息	2,700		<b>900</b>		<b>3,600</b>			
	<b>(4,563,900)</b>	<b>(4,563,900)</b>						
売 上 原 価			<b>285,800</b>	<b>312,500</b>	<b>916,800</b>			
			<b>943,500</b>					
貸倒引当金繰入			<b>15,300</b>		<b>15,300</b>			
減 価 償 却 費			<b>103,750</b>		<b>103,750</b>			
(前 払) 保険料			<b>15,000</b>			<b>15,000</b>		
(未 払) 利 息				<b>900</b>			<b>900</b>	
当期純 (利 益)					<b>107,900</b>			<b>107,900</b>
			<b>2,050,750</b>	<b>2,050,750</b>	<b>1,373,650</b>	<b>1,373,650</b>	<b>3,528,100</b>	<b>3,528,100</b>

[採点基準：□につき2点]

第 1 問

- 現金の实地調査を行い、現金の実際有高と帳簿残高が一致していない場合には、未処理事項を処理することは当然のこと、当該不一致額につき仮勘定である現金過不足により処理する。なお、月末であり、決算ではないため、雑損又は雑益にはこの時点では振り替えない。
  - 実際有高：¥98,250 (紙幣・硬貨) + ¥26,250 (小切手) = ¥124,500
  - 帳簿残高：¥122,000 (帳簿残高) + ¥2,400 (未処理) = ¥124,400
  - 現金過不足：¥124,500 - ¥124,400 = ¥100
- 資金の貸付けに際して約束手形を受取っている場合には、貸付金の回収時に当該約束手形につき取立委任裏書を行い、銀行を通じて回収するため、通常の貸付金ではなく、手形貸付金を用いて処理する。
- 固定資産税の納付につき、事業の用に供している建物に係る部分については租税公課を用いるが、店主個人が負担すべき部分については引出金又は資本金を用いる。なお、勘定科目群の中に資本金が存在しないため、本間では引出金を用いる。
- 有価証券の購入に係る債務は、営業取引以外の取引であるため未払金により処理する。
- 従業員の出張旅費の概算払額は支払時に仮払金で計上し、旅費の支払額が確定した段階で旅費交通費として計上する。

第 2 問

- 勘定記入に関する問題であり、総勘定元帳と得意先元帳との関連性を考慮して解答する。なお、以下①～⑩は問題用紙の ( ① ) ～ ( ⑩ ) に対応する。
- 取引の記録は、簿記上の取引が生じた際に行い、まず仕訳を仕訳帳に記録し、その後当該仕訳の内容を転記により、勘定の集合体である**総勘定元帳**に記録する。
  - 主要簿である総勘定元帳上、どの得意先にそれぞれいくら売掛金が存在しているかを示すことは出来ないため、その詳細として補助簿である**得意先元帳**により記録を行う。
  - 売掛金勘定の借方に計上されているため、売上による増加と判断し、得意先元帳の赤池商店の25日に計上されている売上げ¥72,900が解答となる。
  - 売掛金勘定の貸方に計上されているため、売掛金の回収 (現金・預金) 又は値引・返品による減少 (売掛金) と判断されるが、得意先元帳の赤池商店の12日に計上されているものが値引きであるため、**売上**が解答となる。
  - 相手勘定が当座預金のため、売掛金の回収と判断し、得意先元帳の赤池商店の18日回収高¥67,500と葦田商店の18日回収高¥314,500 (下記⑩) の合計¥382,000となる。
  - 売掛金勘定の貸方に計上されているため、売掛金の回収 (現金・預金) 又は値引・返品による減少 (売掛金) で判断でき、得意先元帳の葦田商店の27日に計上されている返品¥19,600が解答となる。
  - 得意先元帳の赤池商店の貸借差額により求める。よって、解答は¥150,100 (借方合計) - ¥75,700 (次月繰越を除く貸方合計) = ¥74,400となる。
  - 総勘定元帳の前月繰越¥180,500は赤池商店と葦田商店の前月繰越高の合計であることから、¥180,500 - ¥77,200 (赤池商店の前月繰越高) = ¥103,300が解答となる。
  - 得意先元帳の借方に計上されているため、売上による増加と判断し、総勘定元帳の8日に計上されている売上¥311,200が解答となる。
  - 得意先元帳の葦田商店の貸借差額により求める。よって、解答は¥414,500 (借方合計) - ¥100,000 (回収高を除く貸方合計) = ¥314,500となる。

売掛金			
5/1	前月繰越	180,500	5/12 (売上) ( 8,200)
8	売上	311,200	18 当座預金 ( 382,000)
25	(売上)	( 72,900)	27 (売上) ( 19,600)
			31 次月繰越 ( 154,800)
		( 564,600)	( 564,600)

赤池商店			
5/1	前月繰越	77,200	5/12 値引 8,200
25	売上	72,900	18 回収 67,500
			31 次月繰越 ( 74,400)
		(150,100)	(150,100)

鞆田商店			
5/1	前月繰越	(103,300)	5/18 回収 (314,500)
8	売上	(311,200)	27 返品 19,600
			31 次月繰越 80,400
		(414,500)	(414,500)

第 3 問

合計試算表の作成となっているため、総勘定元帳における各勘定の借方合計と貸方合計を一覧表にした試算表を作成する。なお、二重取引は網掛けにて示している。

<仕訳>

1. 現金取引

①	(借) 買掛金	302,500	(貸) 現金	302,500
②	(借) 支払利息	2,400	(貸) 現金	2,400
③	(借) 現金	154,800	(貸) 売上	154,800
④	(借) 旅費交通費	34,200	(貸) 現金	34,200
⑤	(借) 前払金	63,200	(貸) 現金	63,200
⑥	(借) 給料	131,000	(貸) 預り金	5,700
			(貸) 現金	125,300
⑦	(借) 貸付金	20,000	(貸) 現金	20,000
⑧	(借) 現金	420,200	(貸) 売掛金	420,200

2. 当座預金取引

①	(借) 当座預金	91,200	(貸) 前受金	91,200
②	(借) 借入金	20,000	(貸) 当座預金	20,000
③	(借) 当座預金	138,200	(貸) 受取手形	138,200
④	(借) 当座預金	3,600	(貸) 受取利息	3,600
⑤	(借) 支払手形	112,200	(貸) 当座預金	112,200
⑥	(借) 支払家賃	24,100	(貸) 当座預金	24,100
⑦	(借) 仕入	121,000	(貸) 当座預金	121,000
⑧	(借) 預り金	6,200	(貸) 当座預金	6,200

3. 商品仕入取引

①	(借) 仕入	121,000	(貸) 当座預金	121,000
②	(借) 仕入	326,800	(貸) 買掛金	326,800
③	(借) 仕入	124,400	(貸) 支払手形	124,400
④	(借) 仕入	61,900	(貸) 前払金	61,900
⑤	(借) 買掛金	2,000	(貸) 仕入	2,000

4. 商品売上取引

①	(借) 現金	154,800	(貸) 売上	154,800
②	(借) 売掛金	421,500	(貸) 売上	421,500
③	(借) 受取手形	142,600	(貸) 売上	142,600
④	(借) 前受金	89,900	(貸) 売上	89,900
⑤	(借) 売上	8,500	(貸) 売掛金	8,500

5. その他の取引

①	(借) 上記 1 . ⑥ 参照		(貸)	
②	(借) 貸倒損失	2,400	(貸) 売掛金	2,400
③	(借) 買掛金	12,500	(貸) 支払手形	12,500

<勘定>

現金		当座預金	
1/1 前月繰越	375,900	1/1 前月繰越	552,300
※ 売上	154,800	2① 前受金	91,200
1⑧ 売掛金	420,200	2③ 受取手形	138,200
		2④ 受取利息	3,600
		(借方合計)	785,300
(借方合計)	950,900		
		2② 借入金	20,000
		2⑤ 支払手形	112,200
		2⑥ 支払家賃	24,100
		※ 仕入	121,000
		2⑧ 預り金	6,200
		(貸方合計)	283,500
		(貸方合計)	547,600
受取手形		売掛金	
1/1 前月繰越	124,500	1/1 前月繰越	226,900
4③ 売上	142,600	4② 売上	421,500
(借方合計)	267,100	(借方合計)	648,400
		2③ 当座預金	138,200
		(貸方合計)	138,200
前払金		貸付金	
1/1 前月繰越	102,300	1/1 前月繰越	80,000
1⑤ 現金	63,200	1⑦ 現金	20,000
(借方合計)	165,500	(借方合計)	100,000
		3④ 仕入	61,900
		(貸方合計)	61,900
支払手形		買掛金	
2⑤ 当座預金	112,200	1/1 現金	302,500
		3⑤ 仕入	2,000
		5③ 支払手形	12,500
(借方合計)	112,200	(借方合計)	317,000
		1/1 前月繰越	212,300
		3② 仕入	326,800
		(貸方合計)	539,100
前受金		預り金	
4④ 売上	89,900	2⑧ 当座預金	6,200
		(借方合計)	6,200
		1/1 前月繰越	6,200
		1⑥ 給料	5,700
(借方合計)	89,900	(貸方合計)	11,900
		1/1 前月繰越	82,100
		2① 当座預金	91,200
		(貸方合計)	173,300

借入金			資本金		
2② 当座預金	20,000	1/1 前月繰越	50,000	1/1 前月繰越	1,000,000
(借方合計)	20,000	(貸方合計)	50,000	(貸方合計)	1,000,000
仕入			売上		
※ 当座預金	121,000	3⑤ 買掛金	2,000	4⑤ 売掛金	8,500
3② 買掛金	326,800			※ 現金	154,800
3③ 支払手形	124,400			4② 売掛金	421,500
3④ 前払金	61,900			4③ 受取手形	142,600
(借方合計)	634,100	(貸方合計)	2,000	4④ 前受金	89,900
				(貸方合計)	808,800
				(借方合計)	8,500
給料			受取利息		
1⑥ 諸口	131,000			2④ 当座預金	3,600
(借方合計)	131,000			(貸方合計)	3,600
貸倒損失			旅費交通費		
5② 売掛金	2,400			1④ 現金	34,200
(借方合計)	2,400			(借方合計)	34,200
支払家賃			支払利息		
2⑥ 当座預金	24,100			1② 現金	2,400
(借方合計)	24,100			(借方合計)	2,400

第 4 問

- 財務諸表のうち、一定時点の財政状態を示す報告書を貸借対照表といい、一定期間の経営成績を示す報告書を損益計算書という。
- 減価償却累計額勘定や貸倒引当金勘定を評価勘定といい、有形固定資産（建物、備品など）や債権（受取手形、売掛金）の資産価値を示すための勘定をいう。
- 3伝票制は、伝票会計において入金伝票、出金伝票、振替伝票の3つを用いる制度であり、現金収入がある取引には入金伝票、現金支出がある取引には出金伝票、現金収入・支出がない取引には振替伝票を用いる。

第 5 問

以下、精算表の修正記入の欄に記入される基礎となる決算整理仕訳を示す。

1. 決算日に判明した事項

(1) 手付金の誤記入

① 正しい仕訳

(借) 現	金	30,000	(貸) 前	受	金	30,000
-------	---	--------	-------	---	---	--------

② 誤った仕訳

(借) 現	金	30,000	(貸) 売	掛	金	30,000
-------	---	--------	-------	---	---	--------

③ 修正仕訳（修正記入）

(借) 売	掛	金	30,000	(貸) 前	受	金	30,000
-------	---	---	--------	-------	---	---	--------

(2) 仮払金の精算

(借) 備	品	240,000	(貸) 仮	払	金	240,000
-------	---	---------	-------	---	---	---------

(3) 商品仕入

(借) 仕	入	80,000	(貸) 支	払	手	形	32,000
			(〃) 買	掛	金	48,000	

2. 決算整理事項

(1) 売上原価の算定

問題の指示より、売上原価の算定は売上原価勘定で行うこと。

(借) 売	上	原	価	285,800	(貸) 繰	越	商	品	285,800
(借) 売	上	原	価	943,500	(貸) 仕	入			943,500
(借) 繰	越	商	品	312,500	(貸) 売	上	原	価	312,500

※ 仕入：¥863,500（残高T/B仕入）＋¥80,000（上記1. (3)）＝¥943,500

(2) 貸倒引当金の設定

未処理事項により売掛金が変動していることに留意すること。

(借) 貸	倒	引	当	金	繰	入	15,300	(貸) 貸	倒	引	当	金	15,300
-------	---	---	---	---	---	---	--------	-------	---	---	---	---	--------

※ { ¥222,500（残高T/B受取手形）＋¥312,500（残高T/B売掛金）＋¥30,000（上記1. (1)）} × 3% = ¥1,650  
（残高T/B貸倒引当金）＝ ¥15,300

(3) 減価償却

備品の一部につき、当期に取得しているため月割計算を行うこととし、取得月の翌月より使用を開始していることに留意すること。

(借) 減	価	償	却	費	103,750	(貸) 建	物	減	価	償	却	累	計	額	40,000
						(〃) 備	品	減	価	償	却	累	計	額	63,750

※ 減価償却費

① 建物：¥1,200,000（残高T/B建物）÷ 30年 = ¥40,000

② 備品

i 期中取得分：¥240,000（上記1. (2)）× 0.9 ÷ 8年 × 3か月（平成28年10月～12月）/ 12か月 = ¥6,750

ii 既存保有分：¥600,000（残高T/B備品）× 0.95 ÷ 10年 = ¥57,000

iii i + ii = ¥63,750

(4) 消耗品

前期末未使用分は、全額消耗品から消耗品費に振り替え、当期末未使用分は消耗品費から消耗品に振り替える。

(借) 消 耗 品 費	8,000	(貸) 消 耗 品	8,000
(借) 消 耗 品	16,000	(貸) 消 耗 品 費	16,000

(5) 保険料

(借) 前 払 保 険 料	15,000	(貸) 保 険 料	15,000
---------------	--------	-----------	--------

※  $¥36,000$  (残高T/B保険料)  $\times 5$ か月 (平成29年1月~5月) /12か月 =  $¥15,000$

(6) 利息の見越計上

① 借入金の推定

支払利息より借入金を推定し、貸借差額により残高試算表の給料の金額を算出する。

$¥2,700$  (残高T/B支払利息)  $\times 12$ か月 /9か月 (平成28年1月~9月)  $\div 3\% = ¥120,000$

② 見越計上

(借) 支 払 利 息	900	(貸) 未 払 利 息	900
-------------	-----	-------------	-----

※  $¥120,000$  (残高T/B借入金、上記①)  $\times 3\% \times 3$ か月 (平成28年10月~12月) /12か月 =  $¥900$

**3名の税理士試験合格者を輩出!!**

熊本県立八代東高等学校 久保 亮太(22歳)  
 熊本県立八代東高等学校 岩根 佳輝(22歳)  
 熊本県立熊本商業高等学校 鳩野 祐士(21歳)

**日商 1 級・全経上級合格者**

59名/67名 (88.1%) ※当校卒業生の合格率です。

**税理士試験  
科目合格者**

4科目… 4名  
 3科目… 6名  
 2科目… 20名  
 1科目… 7名

開校4年で  
この実績!!

第 146 回

# 日商簿記検定試験

**3 級 模擬問題**

第 3 回



学校法人高橋学園

専門  
学校

東京CPA会計学院



第 1 問 (20 点)

次の各取引について仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現 金	租 税 公 課	有 価 証 券 利 息	雑 損
預 り 金	建 物	前 払 金	支 払 手 形
雑 益	仮 払 金	当 座 預 金	仕 入
買 掛 金	未 払 金	貸 倒 損 失	売 掛 金
貸 倒 引 当 金	受 取 配 当 金	売 上	受 取 利 息
償 却 債 権 取 立 益	土 地	給 料	受 取 手 形

- 渡辺商店は決算に当たり金庫内を確認したところ、次のものがあつたため必要な仕訳を行うこととした。なお、決算整理前の現金勘定の残高は¥294,000であり、現金過不足が生ずる場合、その原因は判明しないものとする。
  - 通貨 ¥213,500
  - 配当金領収書 ¥10,000 (未処理)
  - 社債の利札 ¥4,000 (うち¥2,000は利払日が到来しているが、特に処理をしていない。)
  - 他人振出小切手 ¥120,000 (売掛金の回収として受け取ったものであるが、未処理である。)
  - 自己振出小切手 ¥80,000 (受入時に現金勘定で処理している。)
- 川谷商事は決算に当たり仮払金勘定の残高¥615,200について調査したところ、その原因として次の事項が判明した。
  - 従業員への給与の支給時に源泉徴収した所得税額等の納付額¥415,200を処理していた。なお、給与の支給時には源泉徴収後の金額を給料勘定に計上している。
  - 仕入先に対する商品代金の手付金¥200,000を処理していた。なお、当該商品は既に仕入れており、その際に小切手を振り出して支払った金額(手付金以外の商品代金)を仕入勘定に計上している。
- 松木販売は得意先の小野株式会社に商品¥600,000を販売し、代金のうち¥220,000は櫻田商店が振出人、小野株式会社が受取人の約束手形の裏書譲渡を受け、¥250,000は松木販売が振出人、三宮商事が受取人の約束手形の裏書譲渡を受け、残額は相田商店が振り出した小切手の裏書譲渡を受けた。
- 加藤不動産は次の不動産を購入し、代金はすべて翌月に支払うこととなった。
  - 自己が事務所として使用する建物¥14,000,000及びその敷地の用に供される土地¥26,960,000
  - 販売用の建物¥8,000,000及びその敷地の用に供される土地¥23,220,000
- 森本商店が決算に当たり各勘定科目を調べたところ、当期の貸倒損失勘定の記入は次のとおりであった。よって、必要な修正処理を行う。なお、決算整理前の貸倒引当金勘定の残高は¥179,200である。

貸倒損失

2/19 売 掛 金	111,000	4/21 当 座 預 金	96,600
6/29 売 掛 金	186,500	10/2 現 金	45,000

(注 1) 借方記入額の内容は、次のとおりである。

- 2月19日の金額は、前期に生じた売掛金の回収不能額である。
- 6月29日の金額は、当期に生じた売掛金の回収不能額である。

(注 2) 貸方記入額の内容は、次のとおりである。

- 4月21日の金額は、前期に貸し倒れた売掛金の一部回収額である。
- 10月2日の金額は、当期の2月19日に貸し倒れた売掛金の一部回収額である。

**第 2 問** (6点)

斎藤商事は有価証券として X 株式を保有 (X 株式以外に保有する有価証券はない。) しており、当期 (平成 28 年 1 月 1 日から平成 28 年 12 月 31 日までの会計期間をいう。) の X 株式に関する取引は次の [資料] のとおりである。よって、当該 [資料] に基づき、答案用紙に示した各金額を答えなさい。なお、X 株式の払出単価の計算は、移動平均法によることとする。

[資料] X 株式の当期中の取引の状況 (取引は、2~7 の順に行われているものとする。)

- |          |        |        |       |        |        |
|----------|--------|--------|-------|--------|--------|
| 1. 当期首残高 | 4,000株 | @ ¥250 | 5. 取得 | 7,000株 | @ ¥257 |
| 2. 取得    | 2,000株 | @ ¥247 | 6. 売却 | 3,000株 | @ ¥260 |
| 3. 売却    | 2,500株 | @ ¥251 | 7. 売却 | 6,500株 | @ ¥263 |
| 4. 取得    | 3,500株 | @ ¥253 |       |        |        |

**第 3 問** (24点)

辻元商事の次の [資料] 及び答案用紙の平成 28 年 6 月 1 日現在の残高試算表に基づき、答案用紙の平成 28 年 6 月 30 日現在の残高試算表を作成しなさい。

なお、当期は平成 28 年 1 月 1 日から平成 28 年 12 月 31 日までの会計期間とし、辻元商事は商品の売買をすべて掛で行っているものとする。また、? は各自推定することとし、以下の [資料] で判明するものを除き、平成 28 年 6 月中に取引は行っていないものとする。

[資料 1] 平成 28 年 6 月中の取引に係る総勘定元帳 (一部)

なお、便宜的に毎月ごとに締め切っている。

現 金		当座預金	
1 前月繰越	?	1 前月繰越	?
13 売掛金	222,000	15 ?	?
28 ?	?	17 売掛金	366,200
		20 受取手形	218,400
		29 受取利息	2,500
		1 支払利息	1,500
		8 営業費	26,300
		16 買掛金	241,200
		19 営業費	196,600
		26 ?	?
		28 現金	121,000
		30 次月繰越	?
			?

(注) 19日の営業費は、給料に係るものであり、支給時に ¥10,100 の所得税額等を源泉徴収している。また、預り金は給料に係る源泉徴収税額等を処理したものであり、当該金額は給料を支給した月 (源泉徴収した月) の翌月に納付している。

[資料 2] 平成 28 年 6 月中の取引に係る補助簿 (一部)

1. 得意先元帳 (得意先は A 商店及び B 商事のみである。)

A 商店		B 商事	
1 前月繰越	241,800	1 前月繰越	?
4 売上げ	552,000	12 売上げ	241,700
26 売上げ	?	21 売上げ	161,100
			?
		6 値引き	3,600
		10 受取手形回収	300,000
		17 ?	?
		30 次月繰越	259,100
			?

2. 仕入先元帳（仕入先はC製造及びD販売のみである。）

C製造				D販売				
12	?	?	1 前月繰越	?	13 返品	4,900	1 前月繰越	301,200
24	現金支払い	33,800	9 仕入れ	196,000	16	?	11 仕入れ	?
26	当座預金支払い	180,400	18 仕入れ	271,300	29	支払手形支払い	195,000	
30	次月繰越	?			30	次月繰越	311,700	
		?		?			?	?

3. 受取手形記入帳（一部省略しており、最近計上した受取手形は、以下で示すもの以外にない。）

(単位：円)

平成 28年	摘要	金額	手形 番号	支払人	振出人	振出日	支払 期日		支払場所	顛末				
										月	日	摘要		
5	21	売掛金	?	6	B 商事	B 商事	5	21	7	20	E 銀行	6	20	割引き
6	10	売掛金	?	9	A 商店	A 商店	6	10	9	9	E 銀行			

4. 支払手形記入帳（一部省略しており、最近計上した支払手形は、以下で示すもの以外にない。）

(単位：円)

平成 28年	摘要	金額	手形 番号	受取人	振出人	振出日	支払 期日		支払場所	顛末				
										月	日	摘要		
5	28	買掛金	?	12	C 製造	辻元商事	5	28	7	27	E 銀行	6	19	裏書き
6	12	買掛金	250,000	13	C 製造	辻元商事	6	12	8	11	E 銀行			
	29	買掛金	?	14	D 販売	辻元商事	6	29	8	28	E 銀行			

第 4 問 (8点)

古川商事が有する備品に関する次の[資料]に基づき、答案用紙に示した各金額を答えなさい。

[資料 1] 古川商事が有する備品の内容（ ? は各自推定）

区分	取得原価	使用開始日	償却方法	耐用年数	残存価額
備品 A	¥ ?	平成26年 9月17日	定額法	10年	10%
備品 B	¥ ?	平成27年 2月24日	定額法	5年	ゼロ
備品 C	¥ 4,800,000	平成28年 7月 6日	定額法	6年	ゼロ

(注) 備品 A は平成28年8月16日に ¥2,200,000 で売却している。

[資料 2] 古川商事の備品減価償却勘定への記入の内容（金額は月割で計算している。）

備品減価償却費

26. 12. 31	備品減価償却累計額	?	26. 12. 31	損	益	?
27. 12. 31	備品減価償却累計額	885,000	27. 12. 31	損	益	885,000
28. 8. 16	備品減価償却累計額	150,000	28. 12. 31	損	益	?
28. 12. 31	備品減価償却累計額	?				
		?				?

## 第5問 (42点)

清水商店の次の[資料]に基づき、答案用紙の貸借対照表及び損益計算書を作成しなさい。

なお、期間配分すべき金額がある場合には、その配分は月割計算によることとし、当期は平成28年1月1日から平成28年12月31日までの会計期間とする。

[資料1] 当期の当期首現在及び決算整理前の残高試算表（ ? は各自推定）

残高試算表

(単位：円)

借方科目	当期首現在	決算整理前	貸方科目	当期首現在	決算整理前
現金預金	5,007,900	?	支払手形	2,271,600	2,100,300
受取手形	?	3,491,600	買掛金	2,302,800	?
売掛金	3,839,200	4,108,400	前受金	2,711,500	2,807,300
商品	3,221,900	3,493,300	預り金	90,700	100,200
消耗品	21,300	311,200	借入金	?	?
前払金	1,599,400	?	未払給料	86,800	——
貸付金	?	15,000,000	未払水道光熱費	42,100	——
前払保険料	216,000	——	未払利息	?	——
前払利息	72,000	——	前受利息	60,000	——
建物	?	?	貸倒引当金	222,000	222,000
備品	?	4,890,000	建物減価償却累計額	?	?
土地	12,500,000	12,500,000	備品減価償却累計額	1,275,000	?
貸倒損失	——	167,000	資本金	30,000,000	30,000,000
給料	——	7,869,300	商品販売益	——	?
旅費交通費	——	599,800	受取利息	——	?
水道光熱費	——	2,263,200			
支払保険料	——	696,000			
雑費	——	745,800			
支払利息	——	684,000			
手形売却損	——	69,700			
	?	?		?	?

[資料2] 当期中の取引及び決算整理事項等

## 1. 商品の売買取引について

(1) 商品の売買取引の処理に関しては分記法を採用しており、当期中の原価率（売上原価の売上高に対する割合）は60%である。なお、損益計算書では、売上高及び売上原価を総額で記載することとする。

(2) 当期中の商品の販売取引の内容は、次のとおりである。

現金預金売上高 ￥6,065,500 手形売上高 ￥16,777,800 掛売上高 ￥ ?

手付金売上高 ￥ ?

(3) 当期中の商品の仕入取引の内容は、次のとおりである。

現金預金仕入高 ￥3,703,200 手形仕入高 ￥ ? 掛仕入高 ￥ ?

手付金仕入高 ￥4,803,700

(4) 当期中の得意先からの売掛金の現金預金による回収額は￥14,135,100であり、手形による回収額は ￥ ? （自己が振り出した約束手形の裏書譲渡によるものが￥200,000含まれている。）である。

- (5) 当期中の仕入先への買掛金の現金預金による支払額は¥8,770,400であり、手形による支払額は¥5,964,200（得意先から取得した約束手形の裏書譲渡によるものが¥250,000含まれている。）である。
- (6) 当期中の手形の満期取立及び割引による現金預金への入金額は¥26,568,600（割引料控除前）であり、手形の満期決済による現金預金からの引落額は¥15,910,300である。
- (7) 当期中の得意先からの手付金の現金預金による受入額は¥8,065,100であり、仕入先への手付金の現金預金による支払額は¥4,871,900である。
2. 貸倒損失は、前期発生の売掛金の回収不能額を処理したものである。
3. 貸倒引当金は、毎期売上債権の3%相当額を差額補充法により繰り入れており、当期も同じ条件で貸倒引当金を繰り入れることとする。
4. 当期首の再振替仕訳は、すべて適切に行われている。
5. 消耗品の購入は現金預金で行っており、当期末現在の未使用高は¥22,800である。
6. 固定資産の内容は、次のとおりであり、減価償却を行う。なお、償却方法はすべて定額法である。

区 分	取得原価	使用開始日	耐用年数	残存価額
建 物	¥ ?	平成 5年 1月 1日	30年	10%
備 品 A	¥ ?	平成26年 8月13日	5年	ゼロ
備 品 B	¥ 2,700,000	平成28年 9月19日	5年	ゼロ

（注 1）備品 A は、平成 28 年 9 月 4 日に売却しており、期中では現金預金で受け取った売却代金を備品勘定から減額する処理を行ったのみである。

（注 2）備品 B の取得は現金預金により行っている。

7. 貸付金の内容は、次のとおりであり、受取利息はこれらの貸付金に係るものである。なお、利息の受け取り及び貸付けは現金預金によっている。

貸付先	貸付日	年利率	備 考
甲 社	平成 26 年 5 月 1 日	3%	毎年 5 月 1 日及び 11 月 1 日に 6 か月分の利息を前払いで受け取ることとなっている。
乙 社	平成 28 年 10 月 1 日	5%	毎年奇数月の末日に 2 か月分の利息を後払いで受け取ることとなっている。

8. 借入金の内容は、次のとおりであり、支払利息はこれらの借入金に係るものである。なお、利息の支払いは現金預金によっている。

借入先	借入日	年利率	備 考
丙 銀行	平成 24 年 7 月 1 日	4%	毎年 10 月末、2 月末及び 6 月末に 4 か月分の利息を後払いで支払うこととなっている。
戊 銀行	平成 26 年 12 月 1 日	6%	毎年 12 月 1 日、3 月 1 日、6 月 1 日及び 9 月 1 日に 3 か月分の利息を前払いで支払うこととなっている。

9. 支払保険料は、次の保険契約に係るものであり、契約締結後に保険料の額は変更されていない。なお、保険料の支払いは現金預金によっている。

区 分	契約締結日	備 考
損害保険契約	平成27年10月 1日	建物に係るものであり、毎年10月1日に向こう1年分の保険料を支払うこととなっている。
生命保険契約	平成28年 3月 1日	従業員に係るものであり、毎年3月1日に向こう1年分の保険料を支払うこととなっている。

10. 預り金は、給料支給時の源泉所得税額等を処理したものであり、その納付は現金預金によっている。
11. 給料（源泉徴収後）、旅費交通費、水道光熱費及び雑費の支払いは、すべて現金預金によっている。
12. 当期末現在の未払給料は¥90,100であり、未払水道光熱費は¥41,800である。
13. その他[資料]で判明する決算整理処理を行う。

採 点 欄	
第 1 問	
第 2 問	

専門学校 東京 CPA 会計学院  
第146回 日商簿記検定模擬問題

受験番号 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

生年月日 \_\_\_\_\_

# 3 級 ①

## 商 業 簿 記

**第 1 問** (20点)

	仕		訳	
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1				
2				
3				
4				
5				

**第 2 問** (6点)

当期の有価証券勘定の合計額

¥
---

当期末の有価証券勘定の残高

¥
---

当期の有価証券売却益又は売却損の額

¥	( 益 ・ 損 )
---	-----------

(注) 売却益の額及び売却損の額がいずれも生じる場合には、相殺後の金額とし、益又は損は不要なものを二重線で消すこと。

採 点 欄	
第 3 問	
第 4 問	

専門学校 東京 CPA 会計学院  
第146回 日商簿記検定模擬問題

受験番号 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

生年月日 \_\_\_\_\_

# 3 級 ②

## 商 業 簿 記

第 3 問 (24点)

残高試算表

(単位：円)

6月30日現在	6月1日現在	勘 定 科 目	6月1日現在	6月30日現在
	380,600	現 金		
	1,289,500	当 座 預 金		
	220,000	受 取 手 形		
	569,300	売 掛 金		
	178,100	繰 越 商 品		
	300,000	貸 付 金		
	1,200,000	建 物		
	580,000	車 両 運 搬 具		
		支 払 手 形	180,000	
		買 掛 金	448,500	
		借 入 金	250,000	
		預 り 金	9,800	
		貸 倒 引 当 金	14,600	
		建 物 減 価 償 却 累 計 額	396,000	
		車 両 運 搬 具 減 価 償 却 累 計 額	145,000	
		資 本 金	3,000,000	
		売 上	6,977,000	
		受 取 利 息	15,000	
	4,711,200	仕 入		
	1,990,700	営 業 費		
	10,000	支 払 利 息		
	6,500	手 形 売 却 損		
	11,435,900		11,435,900	

第 4 問 (8点)

備品 A の取得原価

¥

備品 B の取得原価

¥

平成28年12月期の備品減価償却費

¥

備品 A の売却益又は売却損の額

¥

( 益 ・ 損 )

(注) 益又は損は不要なものを二重線で消すこと。



第5問	採点欄
-----	-----

専門学校 東京CPA会計学院  
第146回 日商簿記検定模擬問題

受験番号 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

生年月日 \_\_\_\_\_

# 3 級 ③

## 商業簿記

**第 5 問** (42点)

貸借対照表

清水商店	平成28年12月31日現在		(単位：円)
現金預金 ( )	支払手形 ( )		( )
受取手形 ( )	買掛金 ( )		( )
貸倒引当金 ( ) ( )	前受金 ( )		( )
売掛金 ( )	預り金 ( )		( )
貸倒引当金 ( ) ( )	借入金 ( )		( )
( ) ( ) ( )	( ) 収益金 ( )		( )
消耗品 ( ) ( )	( ) 資本金 ( )		( )
前払金 ( )			
貸付金 ( )			
未収 ( ) ( )			
( ) ( )			
建物 ( )			
減価償却累計額 ( ) ( )			
備品 ( )			
減価償却累計額 ( ) ( )			
土地 ( )			
( ) ( )			
			( )

損益計算書

清水商店	自：平成28年1月1日	至：平成28年12月31日	(単位：円)
売上原価 ( )	売上高 ( )		( )
貸倒引当金 ( ) ( )	受取利息 ( )		( )
給料 ( )			
旅費交通費 ( )			
水道光熱費 ( )			
支払保険料 ( ) ( )			
( ) ( )			
減価償却費 ( )			
雑費 ( )			
支払利息 ( )			
手形売却損 ( )			
( ) ( )			
当期純 ( )			
( ) ( )			
			( )

日商簿記検定 3 級 第 3 回 模擬問題—解答—

第 1 問 (20点)

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	当座預金	80,000	受取配当金	10,000
	雑損金	500	有価証券利息	2,000
	現金	51,500	売掛金	120,000
2	給料	415,200	仮払金	615,200
	仕入	200,000		
3	受取手形	220,000	売上	600,000
	支払手形	250,000		
	現金	130,000		
4	建物	14,000,000	未払金	40,960,000
	土地	26,960,000		
	仕入	31,220,000	買掛金	31,220,000
5	貸倒損失	30,600	償却債権取立益	96,600
	貸倒引当金	66,000		

[採点基準：各 4 点]

第 2 問 (6点)

当期の有価証券勘定の合計額

¥	4,178,500
---	-----------

当期末の有価証券勘定の残高

¥	1,143,000
---	-----------

当期の有価証券売却益又は売却損の額

¥	81,500	( 益 ・ 損 )
---	--------	-----------

(注) 売却益の額及び売却損の額がいずれも生じる場合には、相殺後の金額とし、益又は損は不要なものを二重線で消すこと。

[採点基準：各2点]

第 3 問 (24点)

残高試算表

(単位：円)

6月30日現在	6月1日現在	勘定科目	6月1日現在	6月30日現在
373,800	380,600	現金		
1,249,700	1,289,500	当座預金		
300,000	220,000	受取手形		
587,400	569,300	売掛金		
178,100	178,100	繰越商品		
300,000	300,000	貸付金		
1,200,000	1,200,000	建物		
580,000	580,000	車両運搬具		
		支払手形	180,000	445,000
		買掛金	448,500	462,100
		借入金	250,000	250,000
		預り金	9,800	10,100
		貸倒引当金	14,600	14,600
		建物減価償却累計額	396,000	396,000
		車両運搬具減価償却累計額	145,000	145,000
		資本金	3,000,000	3,000,000
		売上	6,977,000	8,063,300
		受取利息	15,000	17,500
5,625,200	4,711,200	仕入		
2,389,800	1,990,700	営業費		
11,500	10,000	支払利息		
8,100	6,500	手形売却損		
12,803,600	11,435,900		11,435,900	12,803,600

[採点基準：□につき2点]

第 4 問 (8点)

備品Aの取得原価

¥	2,500,000
---	-----------

備品Bの取得原価

¥	3,600,000
---	-----------

平成28年12月期の備品減価償却費

¥	1,270,000
---	-----------

備品Aの売却益又は売却損の額

¥	150,000	( 益 ・ 損 )
---	---------	-----------

(注) 益又は損は不要なものを二重線で消すこと。

[採点基準：各2点]

第 5 問 (42点)

日商簿記検定 3 級 第 3 回 模擬問題一解説一

貸借対照表

清水商店		平成28年12月31日現在		(単位：円)	
現金預金	( 4,366,300)	支払手形	( 2,100,300)		
受取手形 ( 3,491,600)		買掛金	( 2,441,200)		
貸倒引当金 ( 104,748)	( 3,386,852)	前受金	( 2,807,300)		
売掛金 ( 4,108,400)		預り金	( 100,200)		
貸倒引当金 ( 123,252)	( 3,985,148)	借入金	( 12,600,000)		
(商 品)	( 3,493,300)	(未 払 費 用)	( 167,900)		
消耗品	( 22,800)	(前 受) 収益	( 60,000)		
前払金	( 1,667,600)	資 本 金	( 37,102,600)		
貸付金	( 15,000,000)				
未収( 収 益)	( 37,500)				
(前 払 費 用)	( 320,000)				
建 物	( 36,000,000)				
減価償却累計額	( 25,920,000)				
備 品	( 2,700,000)				
減価償却累計額	( 180,000)				
土 地	( 12,500,000)				
	( 57,379,500)		( 57,379,500)		

損益計算書

清水商店		自：平成28年1月1日 至：平成28年12月31日		(単位：円)	
売上原価	( 33,333,300)	売上高	( 55,555,500)		
貸倒引当金(繰入)	( 173,000)	受取利息	( 292,500)		
給 料	( 7,959,400)				
旅費交通費	( 599,800)				
水道光熱費	( 2,305,000)				
支払保険料	( 448,000)				
(消 耗 品 費)	( 288,400)				
減価償却費	( 1,935,000)				
雑 費	( 745,800)				
支払利息	( 648,000)				
手形売却損	( 69,700)				
(固定資産売却損)	( 240,000)				
当期純( 利 益)	( 7,102,600)				
	( 55,848,000)		( 55,848,000)		

[採点基準：□につき2点]

第 1 問

- 現金に関する問題である。未処理項目及び現金過不足の処理が生ずるが、それぞれ次のように考える。
    - 配当金領収書は通貨代用証券であるため、現金勘定に含まれる。よって、未処理であるため、受取配当金に計上する処理が必要である。
    - 社債の利札のうち利払日が到来しているものは、通貨代用証券であるため、現金勘定に含まれる。よって、未処理であるため、有価証券利息に計上する処理が必要となる。
    - 売掛金の回収として取得した他人振出小切手は通貨代用証券であるため、現金勘定に含まれる。未処理であるため、処理が必要である。
    - 自己振出小切手は、振出時に当座預金勘定を減額しているため、逆に裏書譲渡により受け入れた場合には当座預金勘定を増額する。よって、現金勘定で処理しているため、修正が必要となる。
    - 現金過不足の金額は、次のように計算し、原因が不明であるため、雑損で処理する。
      - 現金過不足考慮前の現金勘定の残高  
 $¥294,000 + ¥10,000 + ¥2,000 + ¥120,000 - ¥80,000 = ¥346,000$
      - 現金の実際有高  
 $¥213,500 + ¥10,000 + ¥2,000 + ¥120,000 = ¥345,500$
      - 雑損  $¥346,000 - ¥345,500 = ¥500$
  - 仮払金の精算に関する問題である。それぞれ次のように考える。
    - 源泉徴収税額は、給与支給時に預り金勘定に計上し、納付時に当該預り金勘定を減額することが正しい処理であるが、給与支給時に源泉徴収後の金額を給料勘定に計上しているため、それを考慮して修正が必要となる。
      - 正しい仕訳 (給料の支給総額は不明であるため、×××で示し、当座預金から支給していると仮定している。)

(借)	給 料	×××	(貸)	預 り 金	415,200
			(〃)	当 座 預 金	×××
(借)	預 り 金	415,200	(貸)	当 座 預 金	415,200
    - 誤った仕訳

(借)	給 料	×××	(貸)	当 座 預 金	×××
(借)	仮 払 金	415,200	(貸)	当 座 預 金	415,200
  - 修正仕訳 (解答)

(借)	給 料	415,200	(貸)	仮 払 金	415,200
-----	-----	---------	-----	-------	---------
- 仕入代金の手付金は、支出時に前払金勘定で処理し、実際に商品を仕入れた段階で仕入勘定へ振り替えるが、実際の商品の仕入れ時に手付金以外の金額を仕入勘定に計上したため、それを考慮して修正が必要となる。
  - 正しい仕訳 (小切手を振り出して支払った仕入代金の額が不明であるため、×××で示し、手付金支払いでは当座預金で行っていると仮定している。)

(借)	前 払 金	200,000	(貸)	当 座 預 金	200,000
(借)	仕 入	×××	(貸)	前 払 金	200,000
			(〃)	当 座 預 金	×××

② 誤った仕訳

(借)	仮 払 金	200,000	(貸)	当 座 預 金	200,000
(借)	仕 入	×××	(貸)	当 座 預 金	×××

③ 修正仕訳 (解答)

(借)	仕 入	200,000	(貸)	仮 払 金	200,000
-----	-----	---------	-----	-------	---------

3. 商品の販売に関する問題である。他人振出の約束手形は、受入時に受取手形勘定で処理し、自己振出の約束手形は、振出時に支払手形勘定で処理しているため、裏書譲渡を受けた場合は当該支払手形勘定を減額する。また、他人振出小切手は、通貨代用証券であるため、現金勘定で処理する。

4. 不動産の取得に関する問題である。自己が事務所及びその敷地として使用する建物及び土地は、いずれも固定資産に該当するため、それぞれ建物勘定及び土地勘定で処理し、代金が未払いである場合には、未払金勘定で処理する。販売目的の建物及び土地は棚卸資産に該当するため、仕入勘定で処理し、代金が未払いである場合には、買掛金勘定で処理する。

5. 貸倒損失勘定の修正に関する問題である。

(1) 当期の売掛金の貸倒れ等に関する正しい仕訳は、次のとおりである。なお、前期に生じた売掛金の回収不能額は、期中処理で貸倒引当金勘定を補填するものとする。

2/19	(借)	貸 倒 引 当 金	111,000	(貸)	売 掛 金	111,000
4/21	(借)	当 座 預 金	96,600	(貸)	償 却 債 権 取 立 益	96,600
6/29	(借)	貸 倒 損 失	186,500	(貸)	売 掛 金	186,500
10/2	(借)	現 金	45,000	(貸)	貸 倒 引 当 金	45,000

(注) 前期に貸し倒れた売掛金の回収額は、償却債権取立益勘定で処理し、当期の2月19日に貸し倒れた売掛金の回収額は、貸倒時に貸倒引当金勘定を補填しているため、当該補填を取り消す処理を行う。

(2) 当期の誤った仕訳は、次のとおりである。

2/19	(借)	貸 倒 損 失	111,000	(貸)	売 掛 金	111,000
4/21	(借)	当 座 預 金	96,600	(貸)	貸 倒 損 失	96,600
6/29	(借)	貸 倒 損 失	186,500	(貸)	売 掛 金	186,500
10/2	(借)	現 金	45,000	(貸)	貸 倒 損 失	45,000

(3) 上記を踏まえた修正仕訳 (解答) は、次のとおりである。

(借)	貸 倒 損 失	30,600	(貸)	償 却 債 権 取 立 益	96,600
(〃)	貸 倒 引 当 金	66,000			

第 2 問

有価証券に関する問題である。移動平均法により平均単価を計算する必要があるが、商品と同様に行えばよい。

1. 有価証券勘定の合計額は、借方の合計額又は貸方の合計額のいずれかを計算するが、借方の合計額 (前期繰越+当期取得高合計) を求めるほうが簡単であるため、それを求める。

- (1) 前期繰越 4,000株×@¥250=¥1,000,000
- (2) 当期取得高合計 2,000株×@¥247+3,500株×@¥253+7,000株×@¥257=¥3,178,500
- (3) 借方合計額 ¥1,000,000+¥3,178,500=¥4,178,500

2. 有価証券勘定の期末残高は、次のように計算する。

- (1) 平均単価
  - ① 2の取得時
 
$$\frac{4,000株 \times @ ¥250 + 2,000株 \times @ ¥247}{4,000株 + 2,000株} = @ ¥249$$
  - ② 4の取得時
 
$$\frac{3,500株(注) \times @ ¥249 + 3,500株 \times @ ¥253}{3,500株(注) + 3,500株} = @ ¥251$$

(注) 4,000株+2,000株-2,500株=3,500株
  - ③ 5の取得時
 
$$\frac{7,000株(注) \times @ ¥251 + 7,000株 \times @ ¥257}{7,000株(注) + 7,000株} = @ ¥254$$

(注) 3,500株+3,500株=7,000株

- (2) 期末株数
 
$$4,000株 + 2,000株 - 2,500株 + 3,500株 + 7,000株 - 3,000株 - 6,500株 = 4,500株$$
- (3) 期末帳簿価額
 
$$4,500株 \times @ ¥254 = ¥1,143,000$$

3. 有価証券に関する当期の仕訳は、次のとおりであり、これに基づき売却益の額を計算する。なお、売買代金はすべて当座預金であるものとする。

(1) 2の取得時

(借)	有 価 証 券	494,000	(貸)	当 座 預 金	494,000
-----	---------	---------	-----	---------	---------

(注) 有価証券 2,000株×@¥247=¥494,000

(2) 3の売却時

(借)	当 座 預 金	627,500	(貸)	有 価 証 券	622,500
			(〃)	有 価 証 券 売 却 益	5,000

(注 1) 当座預金 2,500株×@¥251=¥627,500

(注 2) 有価証券 2,500株×@¥249=¥622,500

(3) 4の取得時

(借)	有 価 証 券	885,500	(貸)	当 座 預 金	885,500
-----	---------	---------	-----	---------	---------

(注) 有価証券 3,500株×@¥253=¥885,500

(4) 5の取得時

(借)	有 価 証 券	1,799,000	(貸)	当 座 預 金	1,799,000
-----	---------	-----------	-----	---------	-----------

(注) 有価証券 7,000株×@¥257=¥1,799,000

(5) 6 の売却時

(借)	当 座 預 金	780,000	(貸)	有 価 証 券	762,000
			(〃)	有 価 証 券 売 却 益	18,000

(注 1) 当座預金 3,000株×@¥260=¥780,000

(注 2) 有価証券 3,000株×@¥254=¥762,000

(6) 7 の売却時

(借)	当 座 預 金	1,709,500	(貸)	有 価 証 券	1,651,000
			(〃)	有 価 証 券 売 却 益	58,500

(注 1) 当座預金 6,500株×@¥263=¥1,709,500

(注 2) 有価証券 6,500株×@¥254=¥1,651,000

(7) 有価証券売却益 ¥5,000+¥18,000+¥58,500=¥81,500

また、上記のように仕訳を行うのは時間がかかるため、次のように計算することもできる。

(1) 売却対価の総額 2,500株×@¥251+3,000株×@¥260+6,500株×@¥263=¥3,117,000

(2) 売却原価の総額 ¥4,178,500-¥1,143,000=¥3,035,500

(3) 有価証券売却益 ¥3,117,000-¥3,035,500=¥81,500

第 3 問

残高試算表の作成に関する問題である。平成28年6月中の取引を推定する必要があるが、基本的に同じ日付で他の勘定に記入されたものから推定することとなる。

1. 推定後の現金勘定及び当座預金勘定は、次のとおりである。

現 金		当座預金	
1 前月繰越	380,600	6 営業費	52,700
13 売掛金	222,000	10 預り金	9,800
28 当座預金	121,000	15 当座預金	140,100
		24 買掛金	33,800
		25 営業費	113,400
		30 次月繰越	373,800
	<u>723,600</u>		<u>723,600</u>
		1 前月繰越	1,289,500
		15 現 金	140,100
		17 売掛金	366,200
		20 受取手形	218,400
		29 受取利息	2,500
		26 買掛金	180,400
		28 現 金	121,000
		30 次月繰越	1,249,700
			<u>2,016,700</u>
			<u>2,016,700</u>

なお、取引の推定は次のように考える。

- 現金勘定及び当座預金勘定の前月繰越は、いずれも答案用紙の残高試算表の金額から推定する。
- 現金勘定の28日の記入は、当座預金勘定の同日の記入から推定する。
- 現金勘定の10日の預り金の金額は、答案用紙の残高試算表の預り金の金額と同額である。
- 現金勘定の24日の記入は、仕入先元帳（C製造）の同日の記入から推定する。
- 当座預金勘定の15日の記入は、現金勘定の同日の記入から推定する。
- 当座預金勘定の26日の記入は、仕入先元帳（C製造）の同日の記入から推定する。
- 現金勘定及び当座預金勘定の次月繰越（解答の金額）は、貸借差額で求める。

2. 推定後の得意先元帳は、次のとおりである。

A 商店				B 商事			
1 前月繰越	241,800	6 値引き	3,600	1 前月繰越	327,500	13 現金回収	222,000
4 売上げ	552,000	10 受取手形回収	300,000	12 売上げ	241,700	19 支払手形回収	180,000
26 売上げ	135,100	17 当座預金回収	366,200	21 売上げ	161,100	30 次月繰越	328,300
		30 次月繰越	259,100		<u>730,300</u>		<u>730,300</u>
	<u>928,900</u>		<u>928,900</u>				

なお、取引の推定は次のように考える。

- B 商事の前月繰越は、次のように計算する。  
¥569,300(答案用紙の残高試算表の売掛金)-¥241,800(A商店の前月繰越)=¥327,500
- A 商店の17日の記入は、当座預金勘定の同日の記入から推定する。
- A 商店の26日の売上げの金額は、貸借差額で推定する。
- B 商事の13日の記入は、現金勘定の同日の記入から推定する。
- B 商事の19日の記入は、支払手形記入帳の手形番号12の同日の顛末から推定する（金額は、5参照）。
- B 商事の次月繰越は、貸借差額で計算する。
- 売掛金勘定の次月繰越（解答の金額）は、得意先元帳の次月繰越の合計額となる。  
¥259,100+¥328,300=¥587,400

3. 推定後の仕入先元帳は、次のとおりである。

C 製造				D 販売			
12 支払手形支払い	250,000	1 前月繰越	147,300	13 返 品	4,900	1 前月繰越	301,200
24 現金支払い	33,800	9 仕入れ	196,000	16 当座預金支払い	241,200	11 仕入れ	451,600
26 当座預金支払い	180,400	18 仕入れ	271,300	29 支払手形支払い	195,000		
30 次月繰越	150,400			30 次月繰越	311,700		
	<u>614,600</u>		<u>614,600</u>		<u>752,800</u>		<u>752,800</u>

なお、取引の推定は次のように考える。

- C 製造の前月繰越は、次のように計算する。  
¥448,500(答案用紙の残高試算表の買掛金)-¥301,200(D販売の前月繰越)=¥147,300
- C 製造の12日の記入は、支払手形記入帳で同日に振り出した手形番号13から推定する。
- C 製造の次月繰越は、貸借差額で計算する。
- D 販売の16日の記入は、当座預金勘定の同日の記入から推定する。
- D 販売の11日の仕入れの金額は、貸借差額で推定する。
- 買掛金勘定の次月繰越（解答の金額）は、仕入先元帳の次月繰越の合計額となる。  
¥150,400+¥311,700=¥462,100

4. 金額推定後の受取手形記入帳は、次のとおりである。

平成 28 年	摘要	金額	手形 番号	支払人	振出人	振出日	支払 期日		支払場所	顛末				
							月	日		月	日	摘要		
5	21	売掛金	220,000	6	B 商事	B 商事	5	21	7	20	E 銀行	6	20	割引き
6	10	売掛金	300,000	9	A 商店	A 商店	6	10	9	9	E 銀行			

なお、金額の推定は次のように考える。

- 手形番号6の金額は、前月に受け取ったものであるため、答案用紙の残高試算表の受取手形の金額となる。
- 手形番号9の金額は、A商店の同日の記入から推定する。
- 受取手形勘定の次月繰越（解答の金額）は、6月30日現在保有する手形が手形番号9のみであるため、その金額となる。

5. 金額推定後の支払手形記入帳は、次のとおりである。

平成 28 年	摘要	金額	手形 番号	受取人	振出人	振出日	支払 期日		支払場所	顛末				
							月	日		月	日	摘要		
5	28	買掛金	180,000	12	C 製造	辻元商事	5	28	7	27	E 銀行	6	19	裏書き
6	12	買掛金	250,000	13	C 製造	辻元商事	6	12	8	11	E 銀行			
	29	買掛金	195,000	14	D 販売	辻元商事	6	29	8	28	E 銀行			

なお、金額の推定は、次のように考える。

- 手形番号12の金額は、前月に振り出したものであるため、答案用紙の残高試算表の支払手形の金額となる。
- 手形番号14の金額は、D販売の同日の記入から推定する。
- 支払手形勘定の次月繰越（解答の金額）は、6月30日現在未決済の手形が手形番号13及び14であるため、これらの手形の金額の合計額となる。

$$¥250,000 + ¥195,000 = ¥445,000$$

6. 平成28年6月中の取引に係る仕訳は、次のようになる（参考）。

1	(借)	支払利息	1,500	(貸)	当座預金	1,500
4	(借)	売掛金	552,000	(貸)	売上	552,000
6	(借)	営業費	52,700	(貸)	現金	52,700
6	(借)	売上	3,600	(貸)	売掛金	3,600
8	(借)	営業費	26,300	(貸)	当座預金	26,300
9	(借)	仕入	196,000	(貸)	買掛金	196,000
10	(借)	預り金	9,800	(貸)	現金	9,800
10	(借)	受取手形	300,000	(貸)	売掛金	300,000
11	(借)	仕入	451,600	(貸)	買掛金	451,600
12	(借)	売掛金	241,700	(貸)	売上	241,700
12	(借)	買掛金	250,000	(貸)	支払手形	250,000
13	(借)	現金	222,000	(貸)	売掛金	222,000
13	(借)	買掛金	4,900	(貸)	仕入	4,900
15	(借)	当座預金	140,100	(貸)	現金	140,100
16	(借)	買掛金	241,200	(貸)	当座預金	241,200

17	(借)	当座預金	366,200	(貸)	売掛金	366,200
18	(借)	仕入	271,300	(貸)	買掛金	271,300
19	(借)	営業費	206,700	(貸)	預り金	10,100
				(〃)	当座預金	196,600
19	(借)	支払手形	180,000	(貸)	売上	180,000
20	(借)	当座預金	218,400	(貸)	受取手形	220,000
	(〃)	手形売却損	1,600			
21	(借)	売掛金	161,100	(貸)	売上	161,100
24	(借)	買掛金	33,800	(貸)	現金	33,800
25	(借)	営業費	113,400	(貸)	現金	113,400
26	(借)	売掛金	135,100	(貸)	売上	135,100
26	(借)	買掛金	180,400	(貸)	当座預金	180,400
28	(借)	現金	121,000	(貸)	当座預金	121,000
29	(借)	当座預金	2,500	(貸)	受取利息	2,500
29	(借)	買掛金	195,000	(貸)	支払手形	195,000

#### 第 4 問

固定資産に関する問題である。取得原価等を推定する必要がある。

1. 備品Aの取得原価

平成28年8月16日に記入された備品減価償却費が、備品Aの売却時に計上されたものであると考えられるため、そこから推定する。

$$¥150,000 \times 12 / 8 (\text{平成28年1月} \sim \text{平成28年8月}) \times 10 \text{年} \div 0.9 = ¥2,500,000$$

2. 備品Bの取得原価

平成27年12月31日に計上された備品減価償却費は、備品A及び備品Bの減価償却費の合計額であると考えられるため、そこから推定する。

$$(1) \text{ 備品Aの減価償却費 } ¥2,500,000 \times 0.9 \div 10 \text{年} = ¥225,000$$

$$(2) \text{ 備品Bの減価償却費 } ¥885,000 - ¥225,000 = ¥660,000$$

$$(3) \text{ 備品Bの取得原価 } ¥660,000 \times 12 / 11 (\text{平成27年2月} \sim \text{平成27年12月}) \times 5 \text{年} = ¥3,600,000$$

3. 平成28年12月期の備品減価償却費

備品A、B及びCの減価償却費の合計額である。

$$(1) \text{ 備品Aの減価償却費 } ¥150,000 (\text{売却時の計上額})$$

$$(2) \text{ 備品Bの減価償却費 } ¥3,600,000 \div 5 \text{年} = ¥720,000$$

$$(3) \text{ 備品Cの減価償却費 } ¥4,800,000 \div 6 \text{年} \times 6 (\text{平成28年7月} \sim \text{平成28年12月}) / 12 = ¥400,000$$

$$(4) \text{ 合計 } ¥150,000 + ¥720,000 + ¥400,000 = ¥1,270,000$$

4. 備品Aの売却損益

備品Aの売却時の仕訳は、次のとおりである（売却代金は当座預金で処理する。）。

(借)	備品減価償却費	150,000	(貸)	備品減価償却累計額	150,000
(借)	当座預金	2,200,000	(貸)	備品	2,500,000
(〃)	備品減価償却累計額	450,000	(〃)	固定資産売却益	150,000

(注 1) 備品減価償却累計額

$$¥2,500,000 \times 0.9 \div 10 \text{年} \times 16 (\text{平成}26\text{年}9\text{月} \sim \text{平成}27\text{年}12\text{月}) \div 12 = ¥300,000$$

$$¥300,000 + ¥150,000 = ¥450,000$$

(注 2) 固定資産売却益

$$¥2,200,000 - (¥2,500,000 - ¥450,000) = ¥150,000$$

**第 5 問**

財務諸表の作成に関する問題であり、勘定分析等を用いて金額を推定する必要がある。

1. 売上系統の勘定分析

受取手形勘定、売掛金勘定及び前受金勘定の勘定分析を行い、売上高の総額を推定する。

(1) 受取手形勘定 (ゴシック体が、推定できる金額である。以下同じ。)

受 取 手 形			
前 期 繰 越	3,560,800	買 掛 金	250,000
諸 口	16,777,800	現 金 預 金	26,498,900
<b>売 掛 金</b>	<b>9,971,600</b>	手 形 売 却 損	69,700
		次 期 繰 越	3,491,600
	<u>30,310,200</u>		<u>30,310,200</u>

(注 1) 前期繰越

$$¥222,000 (\text{当期首現在の貸倒引当金}) \div 3\% - ¥3,839,200 (\text{当期首現在の売掛金}) = ¥3,560,800$$

(注 2) 現金預金

$$¥26,568,600 (\text{割引料控除前の現金預金入金額}) - ¥69,700 (\text{決算整理前の手形売却損}) = ¥26,498,900$$

(2) 売掛金勘定

売 掛 金			
前 期 繰 越	3,839,200	現 金 預 金	14,135,100
諸 口	<b>24,742,900</b>	受 取 手 形	9,971,600
		支 払 手 形	200,000
		貸 倒 損 失	167,000
		次 期 繰 越	4,108,400
	<u>28,582,100</u>		<u>28,582,100</u>

(3) 前受金勘定

前 受 金			
諸 口	<b>7,969,300</b>	前 期 繰 越	2,711,500
次 期 繰 越	2,807,300	現 金 預 金	8,065,100
	<u>10,776,600</u>		<u>10,776,600</u>

(4) 売上高総額

$$¥6,065,500 (\text{現金預金売上高}) + ¥16,777,800 (\text{手形売上高}) + ¥24,742,900 (\text{掛売上高}) + ¥7,969,300 (\text{手付金売上高}) = ¥55,555,500$$

2. 仕入系統の勘定分析

支払手形勘定、買掛金勘定、前払金勘定及び商品勘定の勘定分析を行う。

(1) 支払手形勘定

支 払 手 形			
売 掛 金	200,000	前 期 繰 越	2,271,600
現 金 預 金	15,910,300	商 品	<b>10,224,800</b>
次 期 繰 越	2,100,300	買 掛 金	5,714,200
	<u>18,210,600</u>		<u>18,210,600</u>

(注) 買掛金

$$¥5,964,200 (\text{手形による買掛金支払額}) - ¥250,000 (\text{裏書譲渡による支払額}) = ¥5,714,200$$

(2) 買掛金勘定

買 掛 金			
現 金 預 金	8,770,400	前 期 繰 越	2,302,800
支 払 手 形	5,714,200	商 品	14,873,000
受 取 手 形	250,000		
次 期 繰 越	<b>2,441,200</b>		
	<u>17,175,800</u>		<u>17,175,800</u>

(3) 前払金勘定

前 払 金			
前 期 繰 越	1,599,400	商 品	4,803,700
現 金 預 金	4,871,900	次 期 繰 越	<b>1,667,600</b>
	<u>6,471,300</u>		<u>6,471,300</u>

(4) 商品勘定

商 品			
前 期 繰 越	3,221,900	諸 口	33,333,300
現 金 預 金	3,703,200	次 期 繰 越	3,493,300
支 払 手 形	10,224,800		
<b>買 掛 金</b>	<b>14,873,000</b>		
前 払 金	4,803,700		
	<u>36,826,600</u>		<u>36,826,600</u>

(注) 諸口 (売上原価総額)  $¥55,555,500 (\text{売上高総額}) \times 60\% (\text{原価率}) = ¥33,333,300$

なお、売上高ごとの売上原価の内訳が不明であるため、相手科目は諸口としている。

3. 決算整理前の商品販売益の金額の推定

$$¥55,555,500 (\text{売上高総額}) - ¥33,333,300 (\text{売上原価総額}) = ¥22,222,200$$

なお、分記法の場合、期中処理により商品販売益及び期末商品棚卸高が適正に計算されるため、期中処理が誤っていなければ、決算整理仕訳は特に生じない。

4. 貸倒引当金の整理仕訳

(1) 貸倒損失の修正

決算整理前の貸倒損失の金額は、すべて前期発生 of 売掛金の回収不能額であり、貸倒引当金を補填すべきであるため、修正が必要である。

(借)	貸倒引当金	167,000	(貸)	貸倒損失	167,000
-----	-------	---------	-----	------	---------

(2) 貸倒引当金の繰入れ

(借)	貸倒引当金繰入	173,000	(貸)	貸倒引当金	173,000
-----	---------	---------	-----	-------	---------

(注) 貸倒引当金繰入

$$(\text{¥}3,491,600(\text{決算整理前の受取手形}) + \text{¥}4,108,400(\text{決算整理前の売掛金})) \times 3\% - (\text{¥}222,000(\text{決算整理前の貸倒引当金}) - \text{¥}167,000(\text{補填額})) = \text{¥}173,000$$

5. 消耗品の整理仕訳

期中において購入高を消耗品勘定に計上しているため、当期の使用高を消耗品費勘定へ振り替える。

(借)	消耗品費	288,400	(貸)	消耗品	288,400
-----	------	---------	-----	-----	---------

(注) 消耗品費  $\text{¥}311,200(\text{決算整理前の消耗品}) - \text{¥}22,800(\text{未使用高}) = \text{¥}288,400$

6. 固定資産の整理仕訳

(1) 建物について

① 取得原価及び減価償却累計額の推定

残高試算表の金額を推定すると、当期首残高及び決算整理前はいずれも建物及び建物減価償却累計額以外の金額が推定された状態となる。この場合、建物及び建物減価償却累計額が推定されていない状態で残高試算表の当期首残高又は決算整理前の合計額を計算すれば、もちろん借方と貸方との合計額は一致しないが、その合計額の差額は建物の金額と建物減価償却累計額との差額、即ち建物の帳簿価額相当額であるため、そこから推定する。

イ. 取得原価 (建物) の推定

$$\text{¥}11,160,000 \div (0.9 \times (360(30年 \times 12)) - 276(\text{平成}5\text{年}1\text{月} \sim \text{平成}27\text{年}12\text{月})) \div 360 + 0.1 = \text{¥}36,000,000$$

ロ. 建物減価償却累計額の推定

$$\text{¥}36,000,000 - \text{¥}11,160,000 = \text{¥}24,840,000$$

② 整理仕訳

(借)	減価償却費	1,080,000	(貸)	建物減価償却累計額	1,080,000
-----	-------	-----------	-----	-----------	-----------

(注) 減価償却費  $\text{¥}36,000,000 \times 0.9 \div 30年 = \text{¥}1,080,000$

(2) 備品について

① 備品Aの取得原価 (当期首現在の備品) の推定

当期首現在の備品減価償却累計額 of 金額から推定する。なお、決算整理前 of 同金額は、当期首現在と同額である。

$$\text{¥}1,275,000 \times 12 \div 17(\text{平成}26\text{年}8\text{月} \sim \text{平成}27\text{年}12\text{月}) \times 5年 = \text{¥}4,500,000$$

② 売却に関する修正仕訳

(借)	備品	2,310,000	(貸)	備品	4,500,000
(〃)	備品減価償却累計額	1,275,000			
(〃)	減価償却費	675,000			
(〃)	固定資産売却損	240,000			

(注 1) 借方の備品 (売却対価)

$$\text{¥}4,500,000(\text{当期首現在の備品}) + \text{¥}2,700,000(\text{備品Bの取得原価})$$

$$- \text{¥}4,890,000(\text{決算整理前の備品}) = \text{¥}2,310,000$$

(注 2) 減価償却費  $\text{¥}4,500,000 \div 5年 \times 9(\text{平成}28\text{年}1\text{月} \sim \text{平成}28\text{年}9\text{月}) \div 12 = \text{¥}675,000$

(注 3) 固定資産売却損  $(\text{¥}4,500,000 - \text{¥}1,275,000 - \text{¥}675,000) - \text{¥}2,310,000 = \text{¥}240,000$

③ 備品Bの整理仕訳

(借)	減価償却費	180,000	(貸)	備品減価償却累計額	180,000
-----	-------	---------	-----	-----------	---------

(注) 減価償却費  $\text{¥}2,700,000 \div 5年 \times 4(\text{平成}28\text{年}9\text{月} \sim \text{平成}28\text{年}12\text{月}) \div 12 = \text{¥}180,000$

7. 貸付金及び受取利息の整理仕訳

(1) 元本の推定

① 甲社貸付金の元本 (当期首現在の貸付金) の推定

当期首現在の前受利息の額は、甲社貸付金に係るものであるため、それを利率で割り戻して推定する。  
 $\text{¥}60,000 \times 12 \div 4(\text{平成}28\text{年}1\text{月} \sim \text{平成}28\text{年}4\text{月}) \div 3\% = \text{¥}6,000,000$

② 乙社貸付金の元本の推定

$$\text{¥}15,000,000(\text{決算整理前の貸付金}) - \text{¥}6,000,000(\text{甲社貸付金}) = \text{¥}9,000,000$$

(2) 決算整理前の受取利息の推定

決算整理前までの受取利息勘定の記入は、次のとおりである。なお、便宜的に決算整理前で締め切っている。

		受取利息			
12/31	決算整理前の残高	315,000	1/1	前受利息	60,000
			5/1	現金預金	90,000
			11/1	現金預金	90,000
			11/30	現金預金	75,000
		315,000			315,000

(注 1) 5月1日及び11月1日の現金預金 (甲社貸付金に係るもの)

$$\text{¥}6,000,000 \times 3\% \times 6 \div 12 = \text{¥}90,000$$

(注 2) 11月30日の現金預金 (乙社貸付金に係るもの)

$$\text{¥}9,000,000 \times 5\% \times 2 \div 12 = \text{¥}75,000$$

(3) 整理仕訳

受取利息の見越し及び繰延べを行う。なお、貸借対照表では、未収利息は未収収益、前受利息は前受収益で計上する。

(借)	未収利息	37,500	(貸)	受取利息	37,500
(借)	受取利息	60,000	(貸)	前受利息	60,000

(注 1) 未収利息 (乙社貸付金に係るもの)

$$\text{¥}9,000,000 \times 5\% \times 1(\text{平成}28\text{年}12\text{月}) \div 12 = \text{¥}37,500$$

(注 2) 前受利息 (甲社貸付金に係るもの)

$$\text{¥}6,000,000 \times 3\% \times 4(\text{平成}29\text{年}1\text{月} \sim \text{平成}29\text{年}4\text{月}) \div 12 = \text{¥}60,000$$



8. 借入金及び支払利息の整理仕訳

(1) 元本（当期首残高及び決算整理前の借入金）の推定

① 丙銀行借入金の元本の推定

決算整理前の支払利息のうち、丙銀行借入金に係る部分の金額を抽出し、その金額を利率で割り戻して推定する。

イ. 決算整理前の支払利息のうち、戊銀行借入金に係る部分の金額

なお、当期首に再振替仕訳を行っていることに注意し、元本の額の推定は②を参照すること。

$$¥7,200,000 \times 6\% \times 14 (\text{平成28年1月} \sim \text{平成29年2月}) / 12 = ¥504,000$$

ロ. 決算整理前の支払利息のうち、丙銀行借入金に係る部分の金額

$$¥684,000 (\text{決算整理前の支払利息}) - ¥504,000 = ¥180,000$$

ハ. 丙銀行借入金の元本

なお、当期首に再振替仕訳を行っていることに注意する。

$$¥180,000 \times 12 / 10 (\text{平成28年1月} \sim \text{平成28年10月}) \div 4\% = ¥5,400,000$$

② 戊銀行借入金の元本の推定

当期首現在の前払利息は、戊銀行借入金に係るものであるため、その金額を利率で割り戻して推定する。

$$¥72,000 \times 12 / 2 (\text{平成28年1月} \sim \text{平成28年2月}) \div 6\% = ¥7,200,000$$

③ 当期首残高及び決算整理前の借入金の推定

$$¥5,400,000 (\text{丙銀行借入金}) + ¥7,200,000 (\text{戊銀行借入金}) = ¥12,600,000$$

(2) 当期首残高の未払利息の推定

丙銀行借入金に係るものである。

$$¥5,400,000 \times 4\% \times 2 (\text{平成27年11月} \sim \text{平成27年12月}) / 12 = ¥36,000$$

(3) 整理仕訳

支払利息の見越し及び繰延べを行う。なお、貸借対照表では、未払利息は未払費用、前払利息は前払費用で計上する。

(借)	支払利息	36,000	(貸)	未払利息	36,000
(借)	前払利息	72,000	(貸)	支払利息	72,000

(注 1) 未払利息（丙銀行借入金に係るもの）

$$¥5,400,000 \times 4\% \times 2 (\text{平成28年11月} \sim \text{平成28年12月}) / 12 = ¥36,000$$

(注 2) 前払利息（戊銀行借入金に係るもの）

$$¥7,200,000 \times 6\% \times 2 (\text{平成29年1月} \sim \text{平成29年2月}) / 12 = ¥72,000$$

9. 支払保険料の整理仕訳

(1) 損害保険契約の年間保険料の推定

当期首残高の前払保険料は、前期以前に締結した損害保険契約に係るものであるため、そこから推定する。

$$¥216,000 \times 12 / 9 (\text{平成28年1月} \sim \text{平成28年9月}) = ¥288,000$$

(2) 生命保険契約の年間保険料の推定

決算整理前の支払保険料の額から、損害保険契約に係る保険料の額を差し引いて推定するが、前払保険料の額について当期首に再振替仕訳を行っていることに注意する。

$$¥696,000 - ¥288,000 \times 21 (\text{平成28年1月} \sim \text{平成29年9月}) / 12 = ¥192,000$$

(3) 整理仕訳

損害保険契約の保険料及び生命保険契約の保険料のいずれについても繰延べを行う。なお、前払保険料は貸借対照表では前払費用で計上する。

(借)	前払保険料	248,000	(貸)	支払保険料	248,000
-----	-------	---------	-----	-------	---------

(注) 前払保険料

① 損害保険契約に係るもの

$$¥288,000 \times 9 (\text{平成29年1月} \sim \text{平成29年9月}) / 12 = ¥216,000$$

② 生命保険契約に係るもの

$$¥192,000 \times 2 (\text{平成29年1月} \sim \text{平成29年2月}) / 12 = ¥32,000$$

③ 合計 ¥216,000 + ¥32,000 = ¥248,000

10. 未払給料及び未払水道光熱費の整理仕訳

問題の指示どおりに見越しを行う。なお、未払給料等は貸借対照表上未払費用で計上する。

(借)	給料	90,100	(貸)	未払給料	90,100
(借)	水道光熱費	41,800	(貸)	未払水道光熱費	41,800

11. 決算整理前の現金預金の推定

現金預金勘定への記入により推定する。

現金預金	
前期繰越	5,007,900
諸口	6,065,500
売掛金	14,135,100
受取手形	26,498,900
前受金	8,065,100
備用品	2,310,000
受取利息	255,000
預り金	9,500
商品	3,703,200
買掛金	8,770,400
支払手形	15,910,300
前払金	4,871,900
消耗品	289,900
備用品	2,700,000
貸付金	9,000,000
支払利息	648,000
支払保険料	480,000
給料	7,956,100
旅費交通費	599,800
水道光熱費	2,305,300
雑費	745,800
次期繰越	4,366,300
	62,347,000

(注 1) 消耗品 ¥311,200 (決算整理前の消耗品) - ¥21,300 (当期首残高の消耗品) = ¥289,900

(注 2) 受取利息 ¥90,000 + ¥90,000 + ¥75,000 = ¥255,000

(注 3) 支払利息 ¥5,400,000 × 4% + ¥7,200,000 × 6% = ¥648,000

(注 4) 支払保険料 ¥288,000 + ¥192,000 = ¥480,000

(注 5) 給料 ¥7,869,300 (決算整理前の給料) + ¥86,800 (当期首残高の未払給料) = ¥7,956,100

なお、給料の支給時には源泉徴収を行っているが、当期中に源泉徴収した金額及び同納付額は不明である。よって、給料は源泉徴収前の支給総額を計上し、同納付額とのずれは(注 6)によって調整する。

(注 6) 預り金 ¥100,200 (決算整理前の預り金) - ¥90,700 (当期首現在の預り金) = ¥9,500

(注 5) で給料は源泉徴収前の支給総額を現金預金勘定の貸方に記入したため、当期中に源泉徴収した金額と同納付額とのずれを調整するために、預り金勘定の当期末残高と当期首残高との差額

を含める。なお、分かりにくい場合は、当期中に源泉徴収した金額を適当に決めて、源泉徴収後の給料の額及び源泉徴収税額の納付額を推定しても結果は同じである。

(注7) 水道光熱費

$$¥2,263,200(\text{決算整理前の水道光熱費}) + ¥42,100(\text{当期首残高の水道光熱費}) = ¥2,305,300$$

12. 当期純利益の振替仕訳

損益勘定(損益計算書)の貸借差額により計算する。

(借) 損益	7,102,600	(貸) 資本金	7,102,600
--------	-----------	---------	-----------

<参考>金額推定前の残高試算表

借方科目	当期首現在	決算整理前	貸方科目	当期首現在	決算整理前
現金預金	5,007,900	4,366,300	支払手形	2,271,600	2,100,300
受取手形	3,560,800	3,491,600	買掛金	2,302,800	2,441,200
売掛金	3,839,200	4,108,400	前受金	2,711,500	2,807,300
商品	3,221,900	3,493,300	預り金	90,700	100,200
消耗品	21,300	311,200	借入金	12,600,000	12,600,000
前払金	1,599,400	1,667,600	未払給料	86,800	—
貸付金	6,000,000	15,000,000	未払水道光熱費	42,100	—
前払保険料	216,000	—	未払利息	36,000	—
前払利息	72,000	—	前受利息	60,000	—
建物	36,000,000	36,000,000	貸倒引当金	222,000	222,000
備品	4,500,000	4,890,000	建物減価償却累計額	24,840,000	24,840,000
土地	12,500,000	12,500,000	備品減価償却累計額	1,275,000	1,275,000
貸倒損失	—	167,000	資本金	30,000,000	30,000,000
給料	—	7,869,300	商品販売益	—	22,222,200
旅費交通費	—	599,800	受取利息	—	315,000
水道光熱費	—	2,263,200			
支払保険料	—	696,000			
雑費	—	745,800			
支払利息	—	684,000			
手形売却損	—	69,700			
	76,538,500	98,923,200		76,538,500	98,923,200

**3名の税理士試験合格者を輩出!!**

熊本県立八代東高等学校 久保 亮太(22歳)  
 熊本県立八代東高等学校 岩根 佳輝(22歳)  
 熊本県立熊本商業高等学校 鳩野 祐士(21歳)

**日商1級・全経上級合格者**  
 59名/67名 (88.1%) ※当校卒業生の合格率です。

開校4年でこの実績!!

**税理士試験 科目合格者**

4科目… 4名  
 3科目… 6名  
 2科目… 20名  
 1科目… 7名